資料２－４

令和４年度第２回西条市総合教育会議

令和４年度実施

西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査

報告書（中学校教員向け調査）

令和５年１月

経営戦略部政策企画課

教育委員会事務局教育総務課

目　次

１　本調査の概要 1
２　基本情報 2
（１）性別 2
（２）年齢 2
（３）所属する中学校・地区別 3
３　市内中学校の学校規模について 4
（１）法令で標準を下回る学級数の学校勤務経験 4
（２）市内中学校の学校規模について 4
（３）20 年前と現在の子どもの数について 6
４　小規模校の良さと課題について 8
（１）小規模校の良さ 8
（２）小規模校の課題 12
（３）小規模校における学校運営上の課題 15
５　学級数と生徒数について 19
（１）１学年あたりで適切だと思う学級数 19
（２）１学級あたりで適切だと思う生徒数 19
６　学校規模適正化に係る学校再編について 20
（１）将来的に中学校の再編をどのようにしていくべきか 20
（２）中学校の学校再編を進める場合に配慮が必要な点 25
（３）中学校の学校再編を進める場合の通学に関して配慮が必要な点 28
７　参考資料（アンケート用紙） 32

１　本調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、令和 2 年度に実施した「西条市の教育に関するアンケート調査」結果において、将来的な子どもたちの教育環境の充実を図るためには一定程度の児童・生徒数、学級数が必要であるとの回答が多い傾向がみられたことから、西条市の次代を担う子どもたちの将来的な学校教育環境の最適化を図ることを目的として実施しました。

（２）調査の方法と実施時期

この調査は、市内 10 の市立中学校に勤務されている教員を対象に実施しました。具体的には、令和 4 年 9 月 12 日に各中学校に調査票を配布し、教員 1 名につき 1 通の調査票を配布した上で、9 月 29 日までに各学校で集約していただき、10 月 4 日に回収する方法を採用しました。

（３）調査票の回収状況

本調査はすべての対象者に調査票を配布する全数調査の方式を採用しています。

令和 4 年 4 月 1 日現在における市内 10 市立中学校の勤務されている教員（校長・教頭・主幹教諭・教諭・講師・非常勤講師・養護教諭・養護助教諭・栄養教諭）は 248 名であり、そのうち回収した調査票は 210 通、回収率は 84.7%となったことから、本調査の信頼度は極めて高いということが言えます。

（４）調査票の内容

送付した調査票は文末に掲載しています。

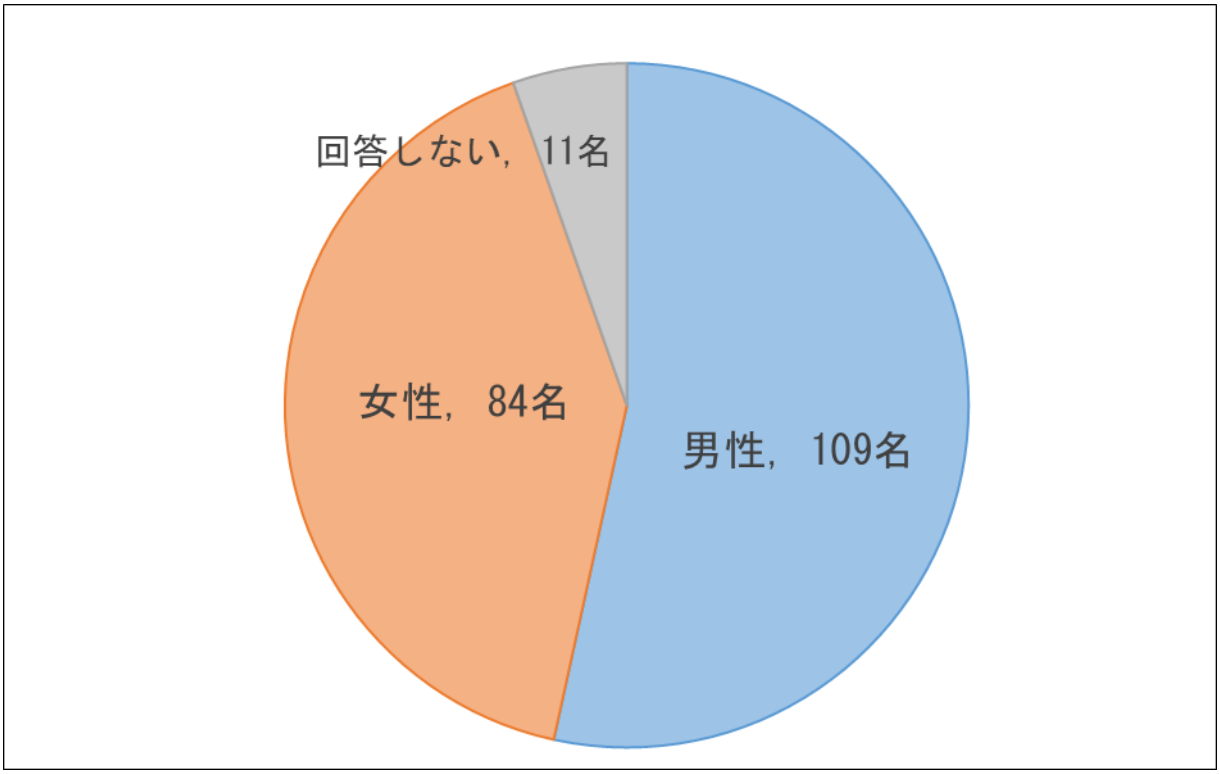
（５）その他

各図表のデータ処理にあたりましては、当該質問項目に対して無回答であった方を除いて処理を行っていますので、必ずしも合計値と回収した調査票数が一致するとは限りません。また、構成比率につきましても、それぞれの項目ごとの構成比を小数点以下第 2 位で四捨五入していますので、必ずしも構成比の合計値が 100%になるとは限りません。

２　基本情報

（１）性別

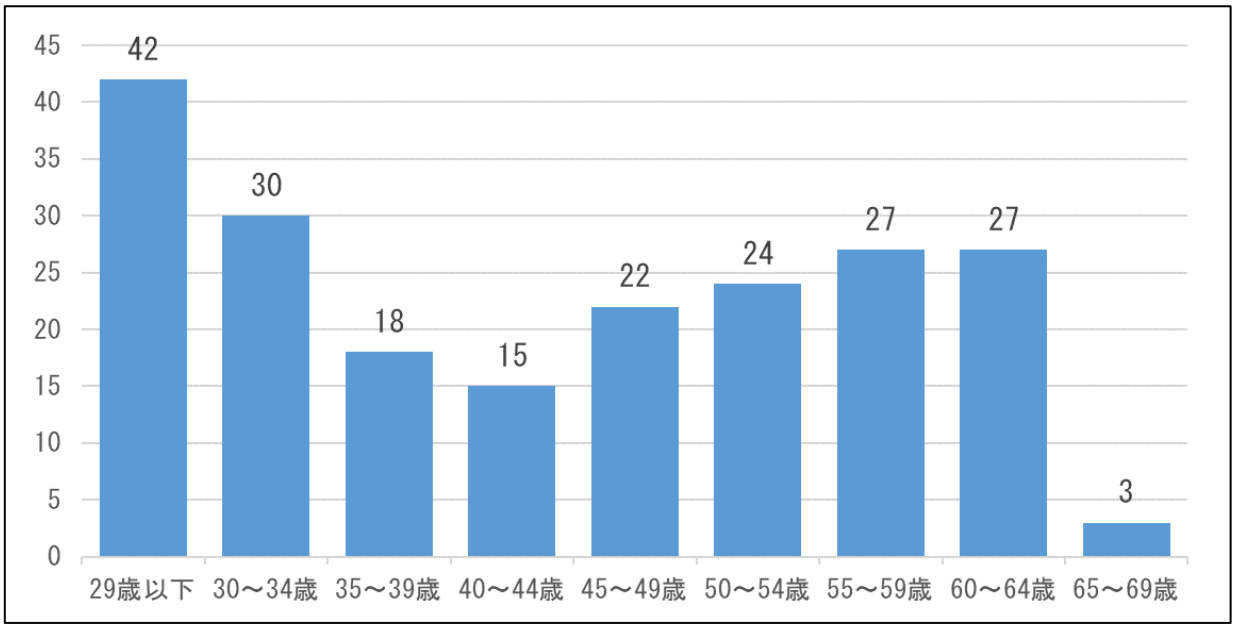
図表 2-1 によると、回答者のうち男性は 109 名、女性は 84 名、回答しないが 11 名となりました。



図表２－１　回答者の性別（Ｎ＝２０４）

（２）年齢

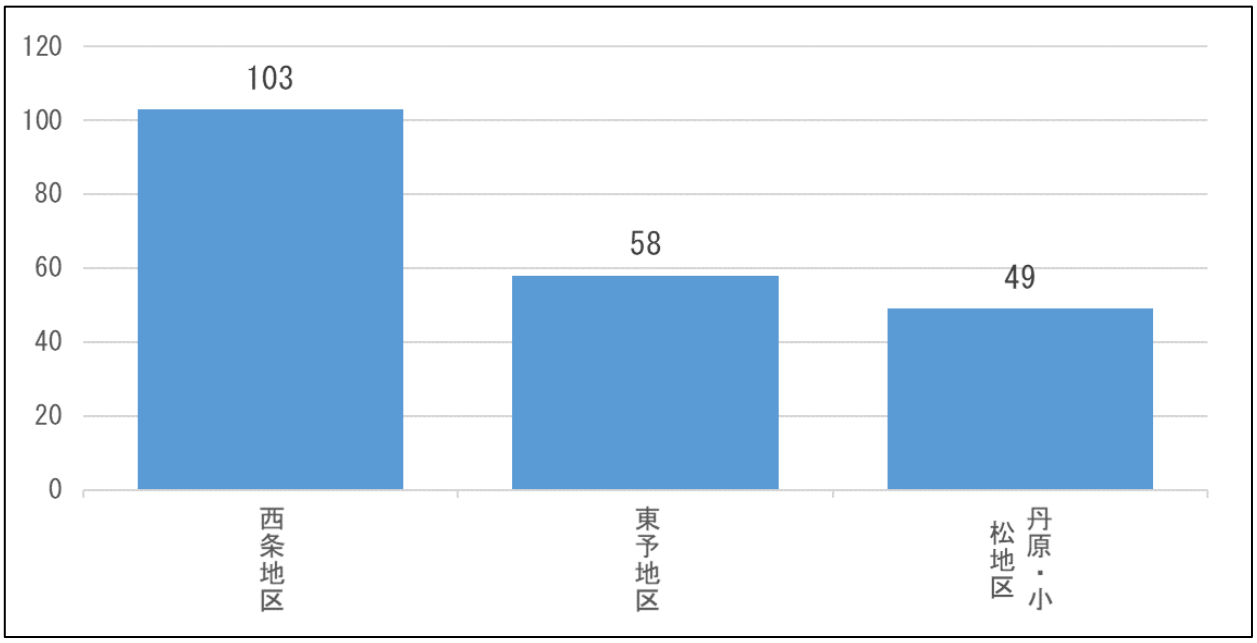
図表 2-2 によると、29 歳以下の教員からの回答が最も多くなりました。



図表２－２　回答者の年齢（Ｎ＝２０８）

（３）所属する中学校・地区別

図表 2-3 によると、回答者は西条地区の中学校に勤務する教員が最も多く、次いで東予地区、丹原・小松地区となりました。地区ごとに違いがありますが、本調査は概ね市内 10 の市立中学校に勤務されている教員の意見がバランスよく反映されています。

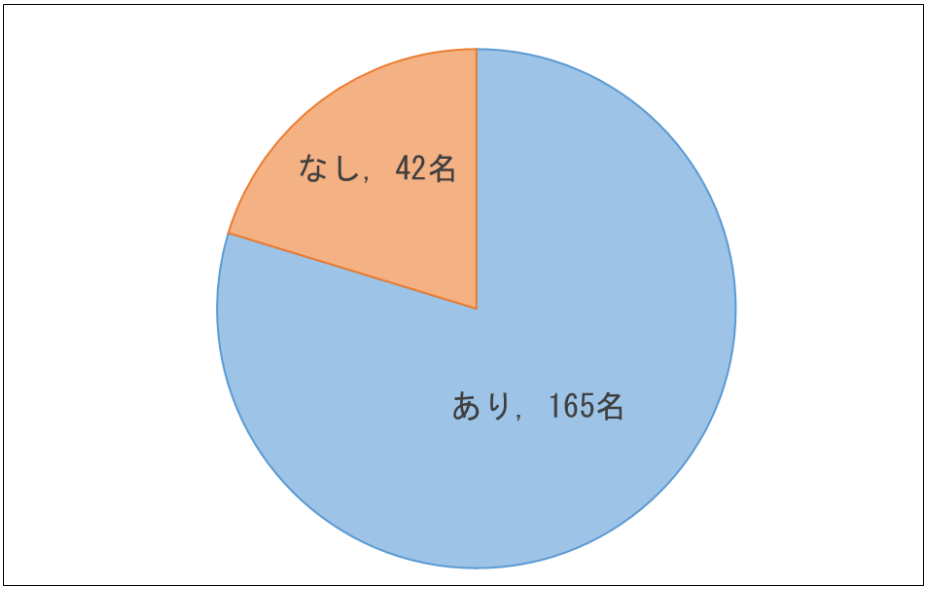


図表２－３　所属する中学校・地区別（Ｎ＝２１０）

３　市内中学校の学校規模について

（１）法令で標準を下回る学級数の学校勤務経験

図表 3-1 によると、法令で定める標準を下回る学級数（１校あたり１１学級以下）の学校での勤務経験について、約 80%の方が「あり」と回答しました。



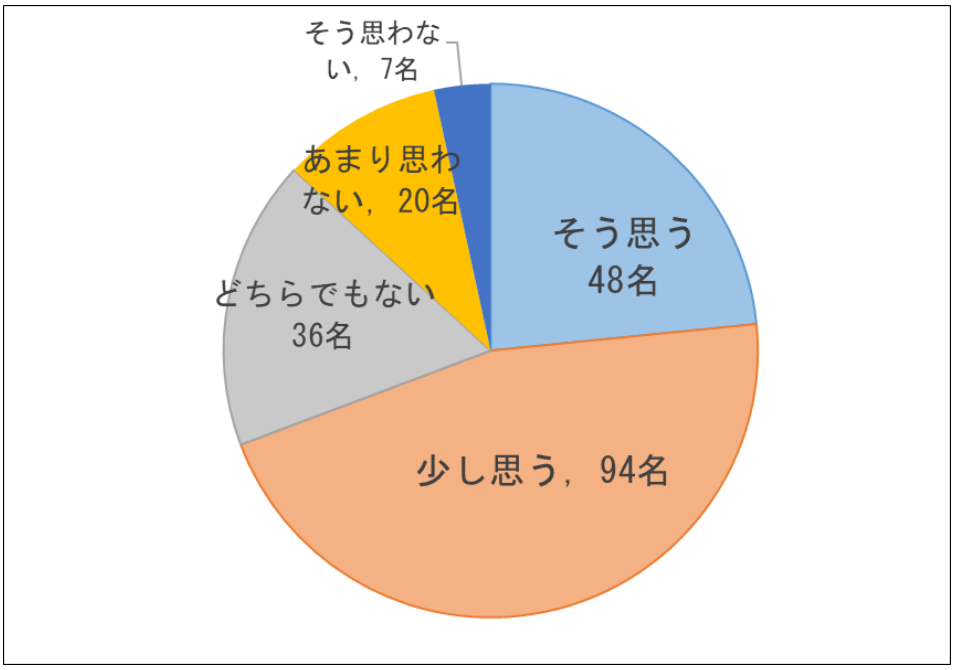
図表３－１　法令で標準を下回る学級数の学校勤務経験の有無（Ｎ＝２０７）

（２）市内中学校の学校規模について

【結果概要】

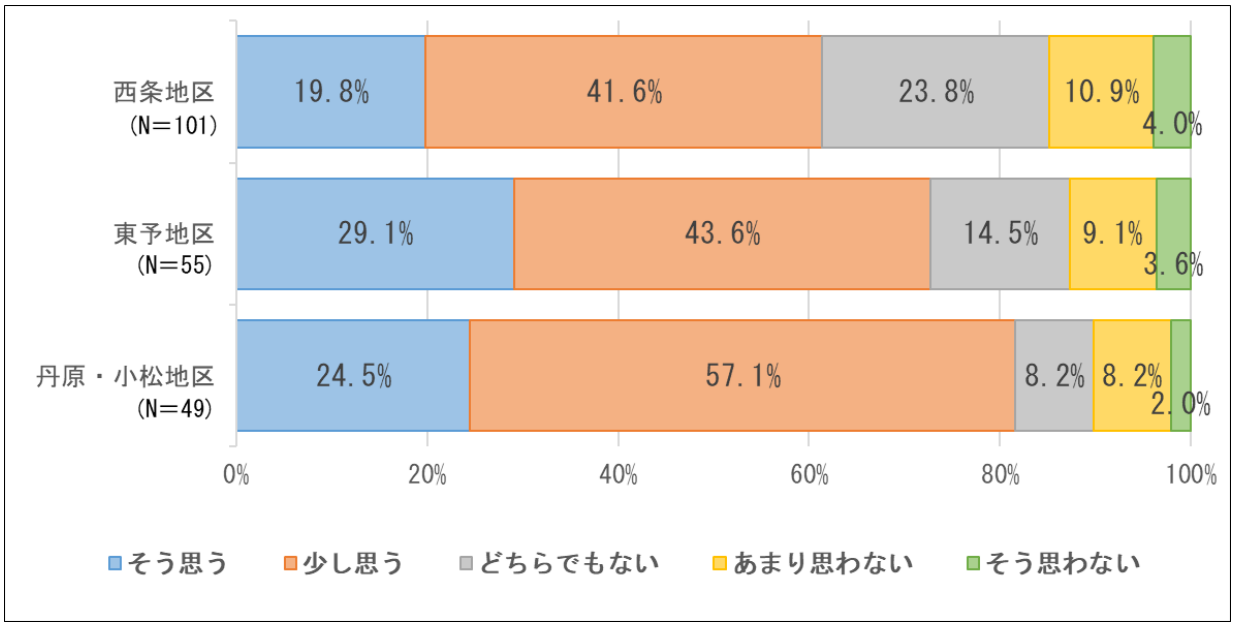
- 小さい規模の中学校が多いと感じている回答が約 7 割を占める結果となりました。（図表 3-2 参照）
- 地区別では、丹原・小松地区の回答は、西条地区、東予地区の回答に比べて、小さい規模の学校が多いと感じている方が多い傾向がみられました。（図表 3-3 参照）
- 大規模な中学校では小さい規模の学校が多いと感じる回答が 61.1%だったのに対し、小規模な中学校では 78.3%と回答する比率が高い傾向がみられました。（図表 3-4）

図表 3-2 によると、「そう思う」「少し思う」と回答した方が最も多く、小さい規模の中学校が多いと感じている回答が多くなりました。



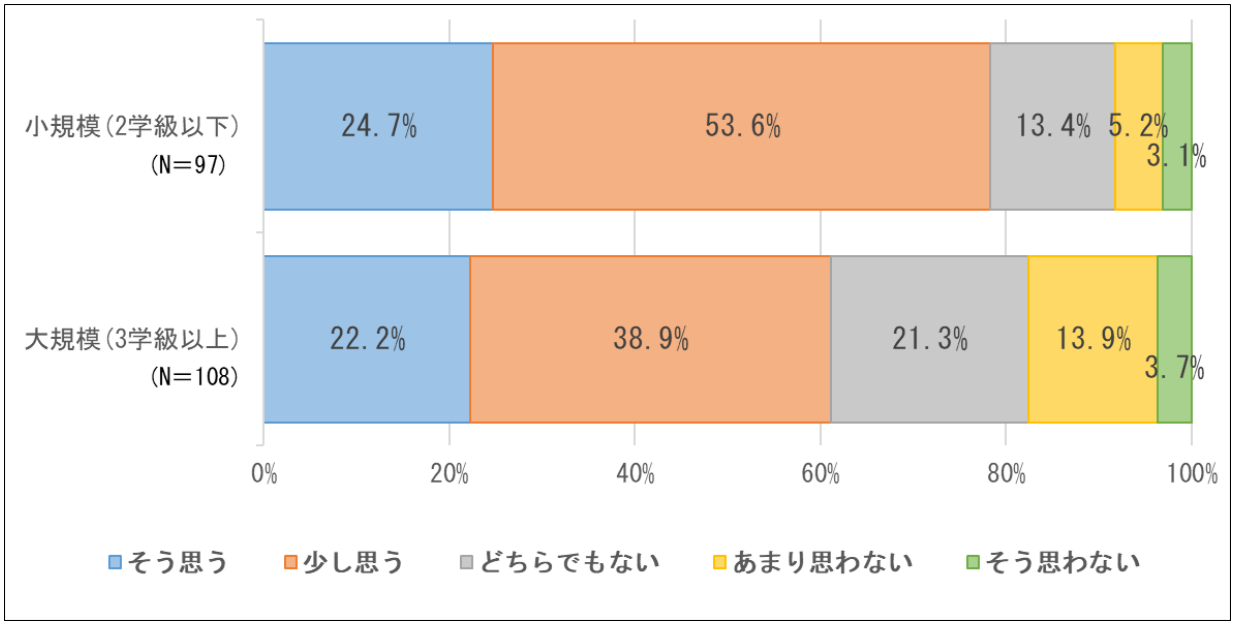
図表３－２　小さい規模の中学校が多いと感じる（Ｎ＝２０５）（単純集計）

図表 3-3 によると、すべての地区で「そう思う」「少し思う」の比率が高くなり、中でも、丹原・小松地区においては他の地区に比べてもさらに回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表３－３　小さい規模の中学校が多いと感じる（所属する中学校の地区別）

図表 3-4 によると、全体で「そう思う」「少し思う」の比率が高く、その内訳では、大規模校に勤務される方が 61.1%の回答に対し、小規模校に勤務される方の回答が 78.3%となりました。小規模校に勤務されている方のほうが、小さい規模の中学校が多いと感じている回答が多い傾向がみられました。



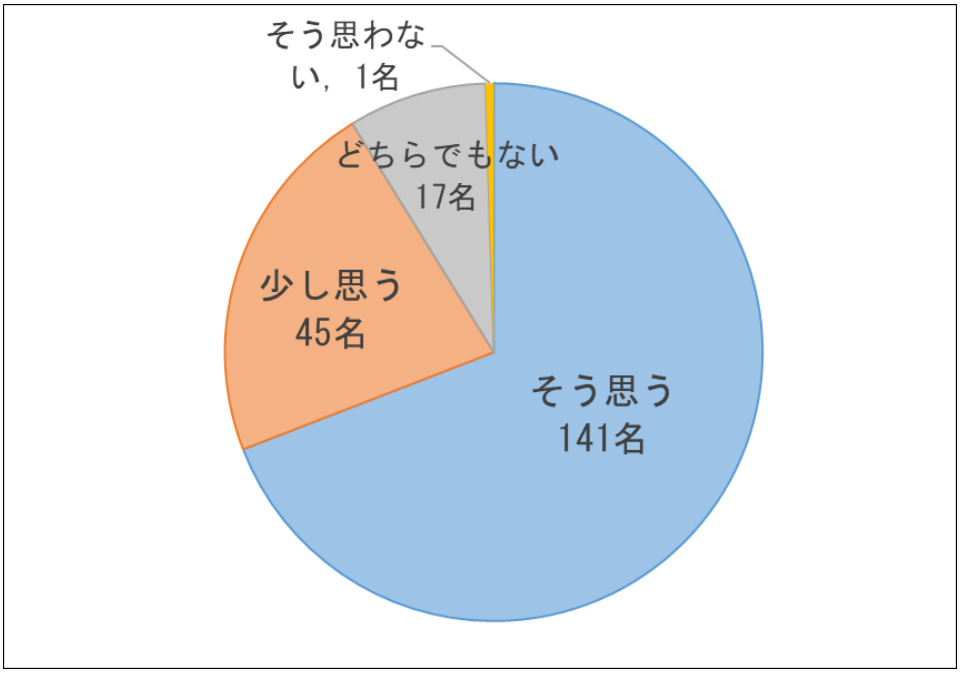
図表３－４　小さい規模の中学校が多いと感じる（所属する中学校の 3 年生規模別）

（３）20 年前と現在の子どもの数について

【結果概要】

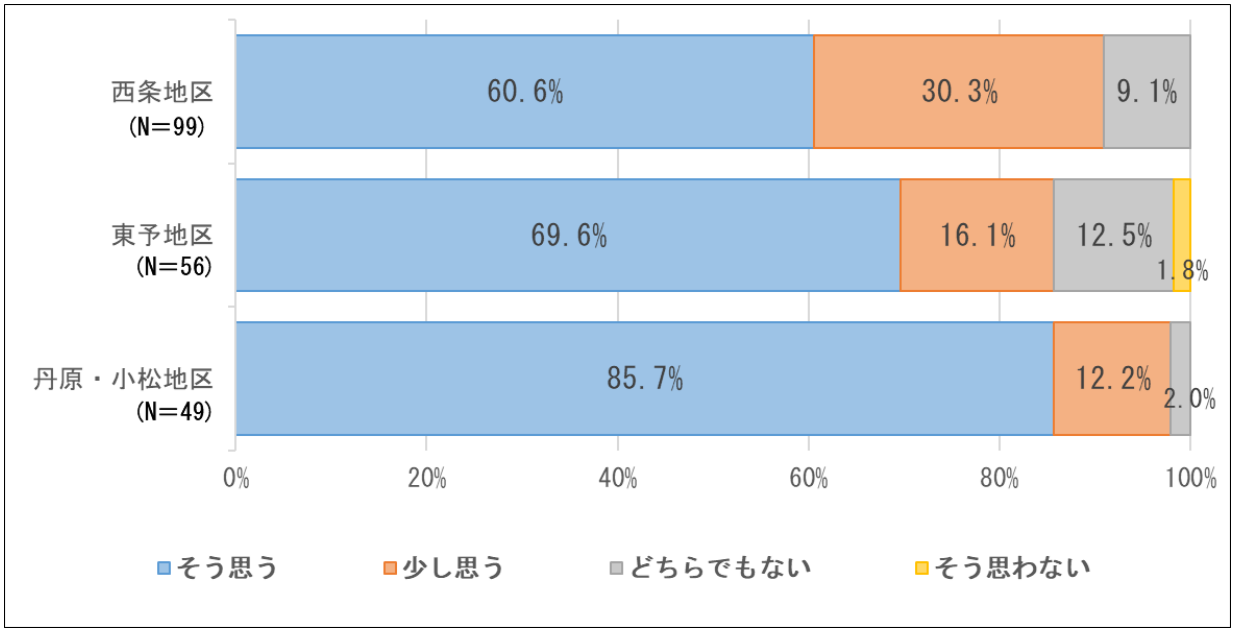
- 20 年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じると回答した方が約 9 割を占めました。（図表 3-5 参照）
- 地区別では、丹原・小松地区の回答は、西条地区、東予地区の回答に比べて、20 年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じている方が多い傾向がみられました。（図表 3-6 参照）
- 大規模な中学校では 20 年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じる回答が 87.7%だったのに対し、小規模な中学校では 94.9%と回答した比率が高くなりました。（図表 3-7 参照）

図表 3-5 によると、「そう思う」「少し思う」の方の回答が約 9 割となり、20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じている方の回答が大半を占める結果となりました。



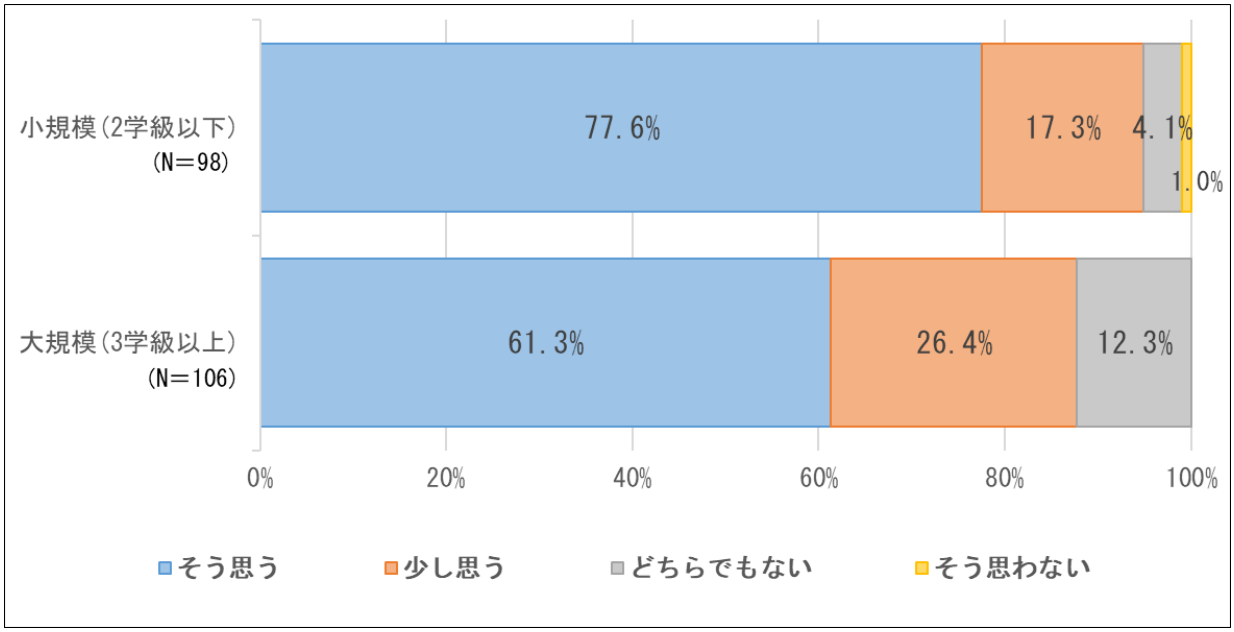
図表３－５　20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる（Ｎ＝２０４）（単純集計）

図表 3-6 によると、「そう思う」「少し思う」の方の回答の比率が高くなり、図表 3-3 と同様に丹原・小松地区においては 97.9%と他の地区に比べてもさらに高くなる傾向がみられました。



図表３－６　20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる（Ｎ＝２０４）
（所属する中学校の地区別）

図表 3-7 によると、「そう思う」「少し思う」の方の回答が高くなり、その内訳では、大規模校に勤務される方が 87.7%の回答に対し、小規模校に勤務される方の回答が 94.9%となりました。小規模校に勤務されている方のほうが、20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じている回答の比率が高い傾向がみられました。



図表３－７　20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる（Ｎ＝２０４）
（所属する中学校の 3 年生規模別）

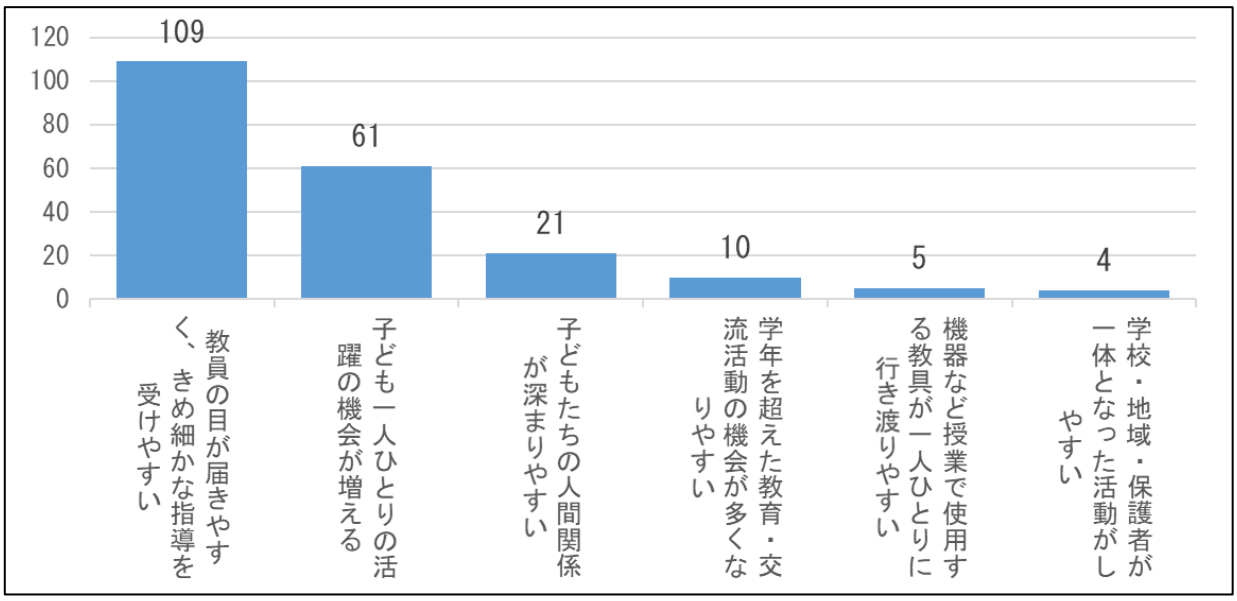
４　小規模校の良さと課題について

（１）小規模校の良さ

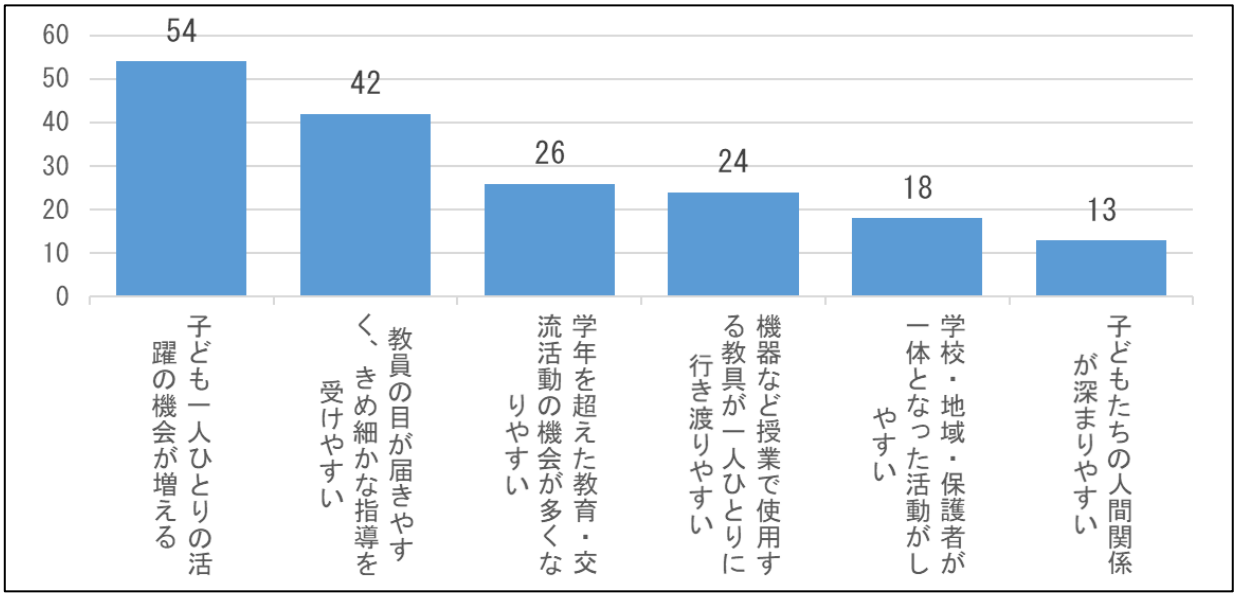
【結果概要】

- 教員のきめ細かな指導や、子どもの活躍の場が増えると感じている方が多い一方で、地域の一体感を醸成するような機能を期待する方が少ない傾向がみられました。（図表 4-1、4-2 参照）
- 年齢によって回答する傾向にバラつきがあるものの、29 歳以下では人間関係の深まりや他学年との交流機会が多い部分もメリットだと感じている方が多い一方で、30～39 歳と 50 歳以上では、子どもが少なくなることで一人ひとりに行き届いた指導ができることがメリットであると回答する方が多い傾向がみられました。（図表 4-4 参照）
- 大規模な中学校で教員のきめ細かな指導を重視する傾向がみられる一方で、小規模な中学校では、子どもの活躍機会が増える事を重視する傾向がみられました。（図表 4-6 参照）

図表 4-1 によると、第 1 選択では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-2 によると、第 2 選択では「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した人が最も多くなり、次いで「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した方が多くなりました。

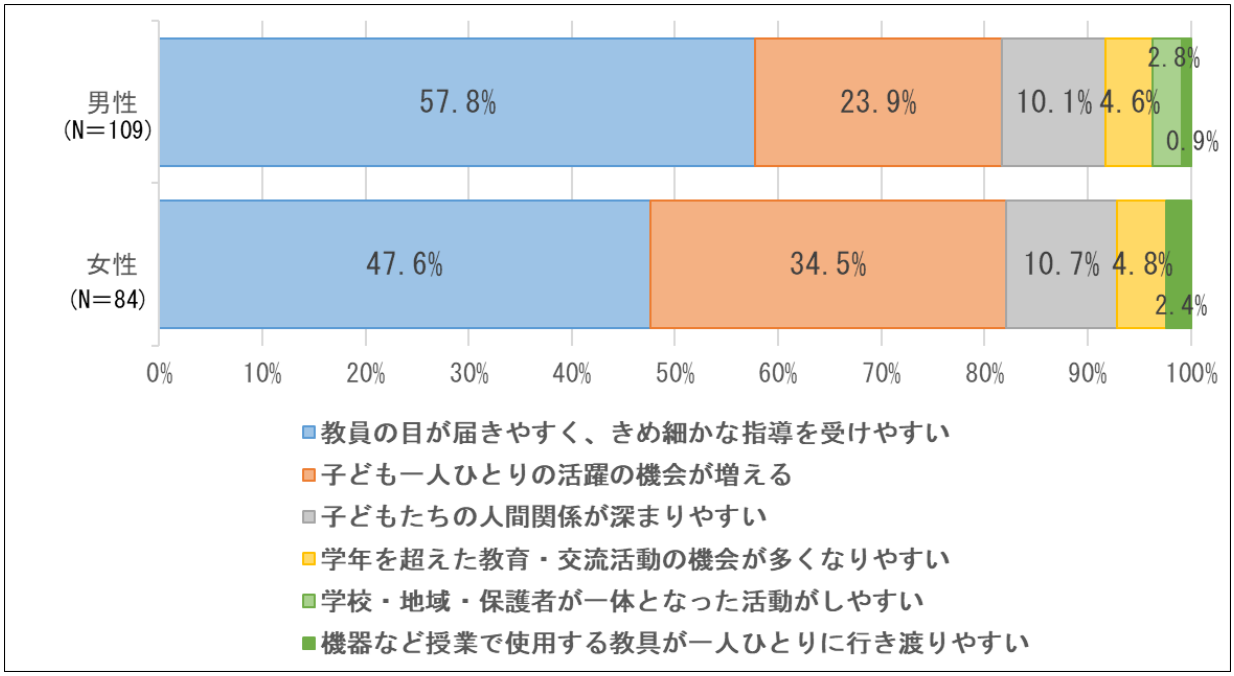


図表４－１　小規模校の良さ（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２１０）



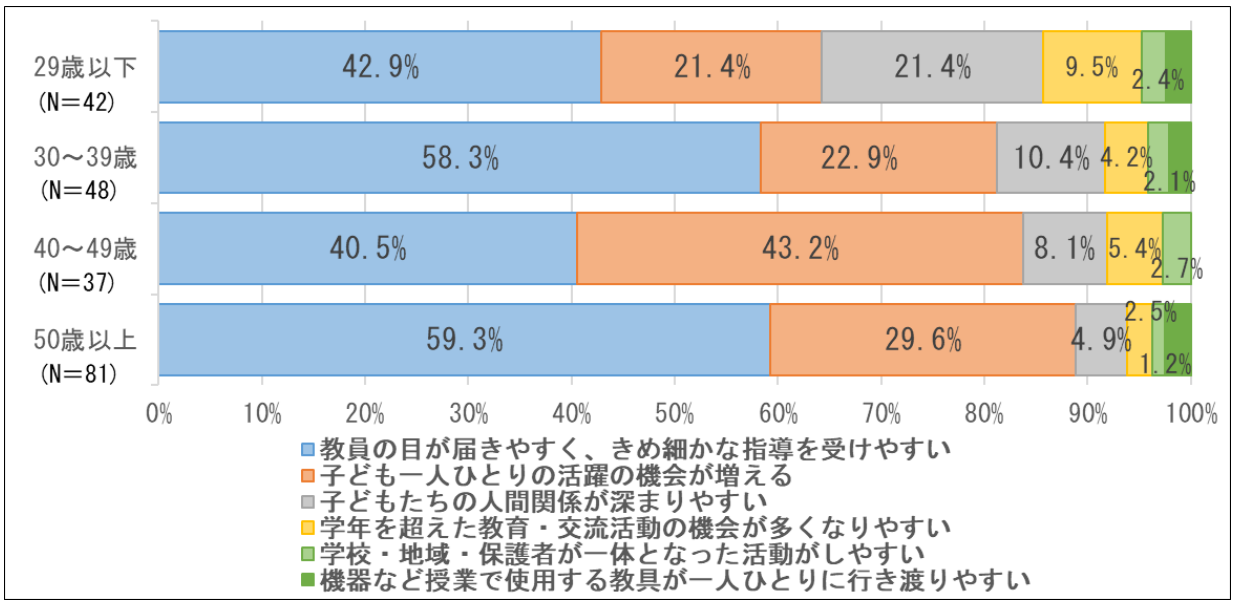
図表４－２　小規模校の良さ（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１７７）

図表 4-3 によると、男女で多少の差があるものの「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなりました。



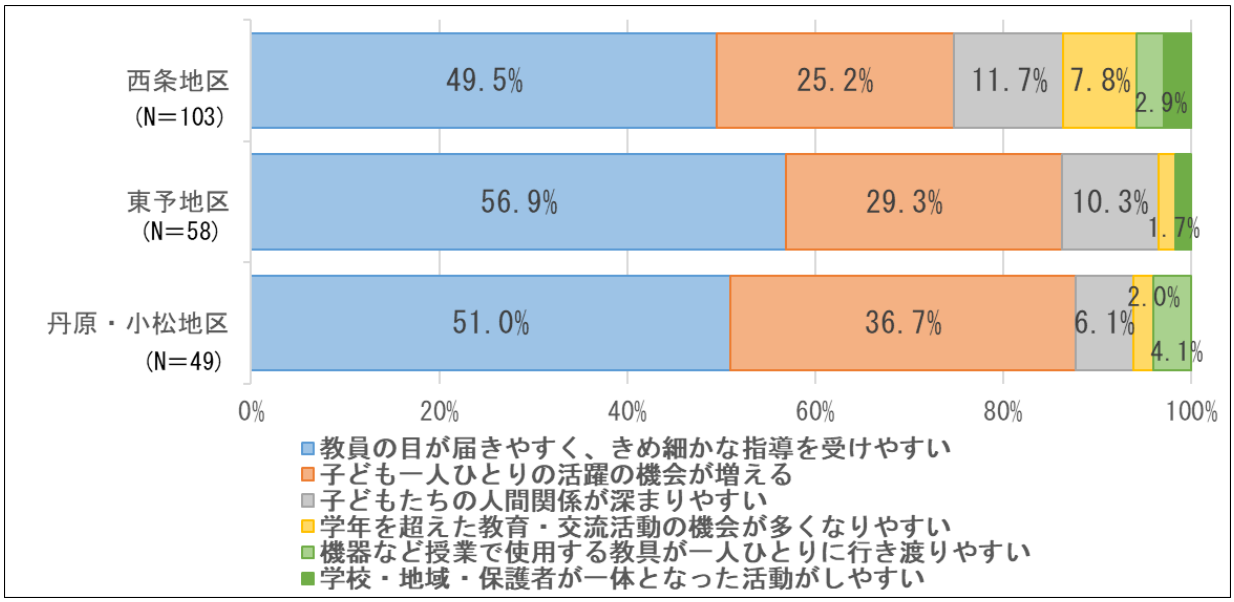
図表４－３　小規模校の良さ（第１選択・男女別）

図表 4-4 によると、全体では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなりました。一方、40～49 歳の年齢では、「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が最も高くなりました。



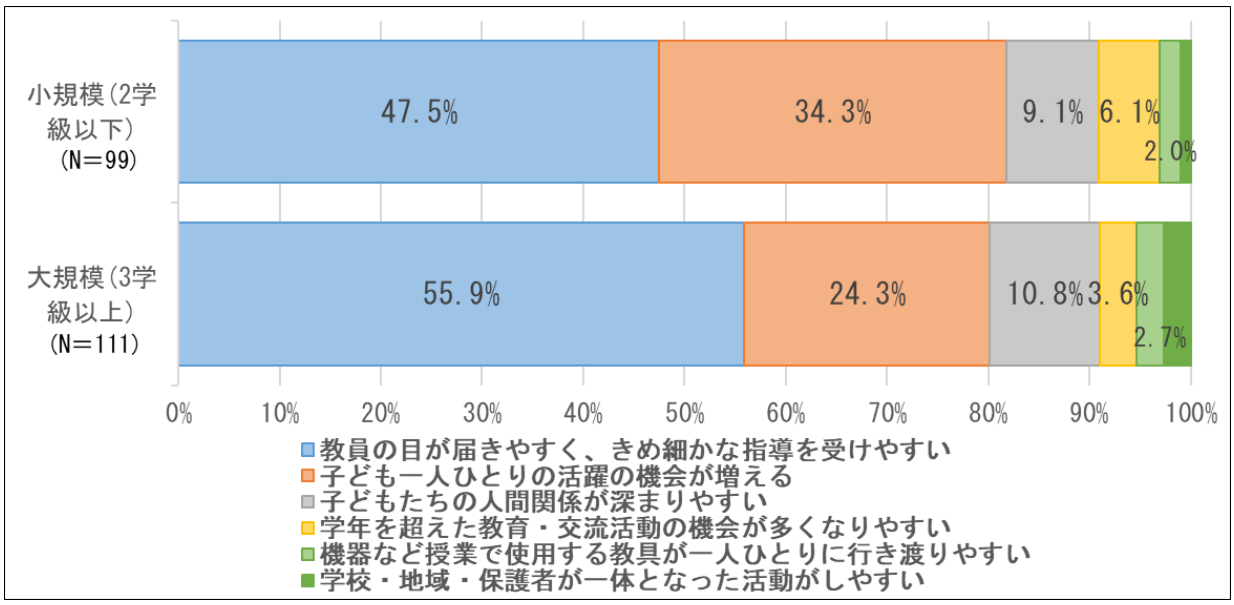
図表４－４　小規模校の良さ（第１選択・年齢別）

図表 4-5 によると、すべての地区で「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなりました。上位２項目の回答した比率では、東予地区、丹原・小松地区に比べ、西条地区が約 10%低い比率となりましたが、「子どもたちの人間関係が深まりやすい」「学年を超えた教育・交流活動の機会が多くなりやすい」と回答した比率については、東予地区、丹原・小松地区の回答より高い傾向がみられました。



図表４－５　小規模校の良さ（第１選択・所属する中学校の地区別）

図表 4-6 によると、すべての中学校の規模で「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなりました。



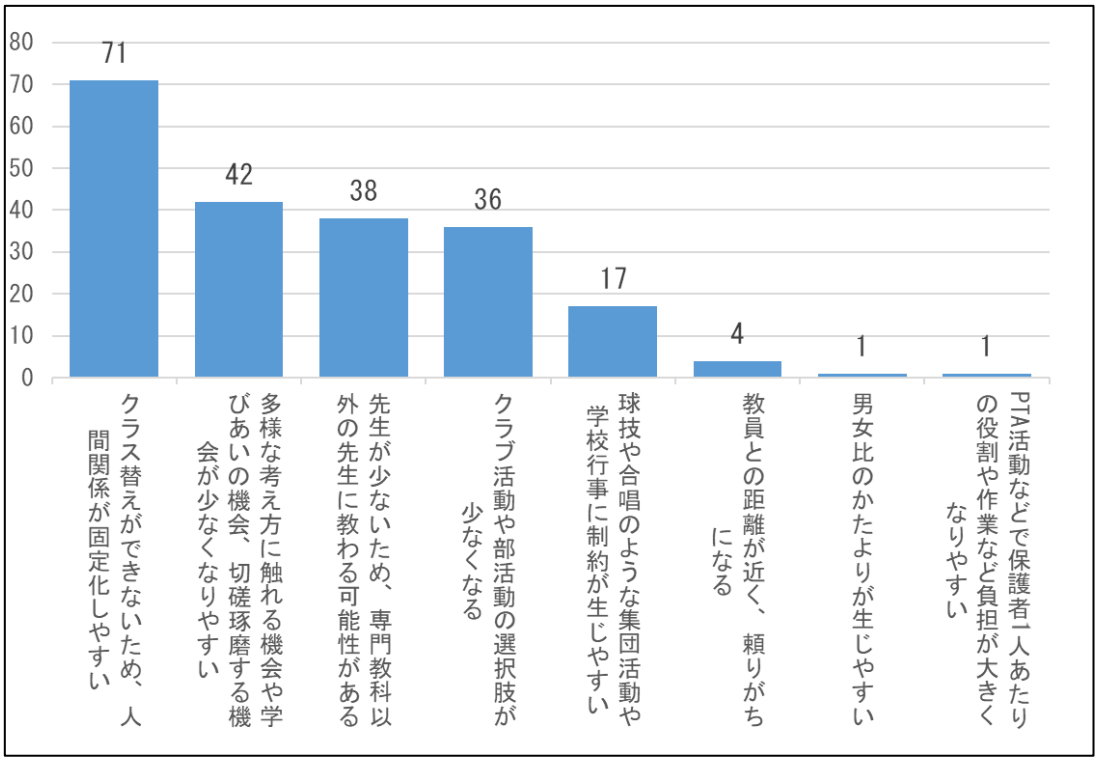
図表４－６　小規模校の良さ（第１選択・所属する中学校の３年生規模別）

（２）小規模校の課題

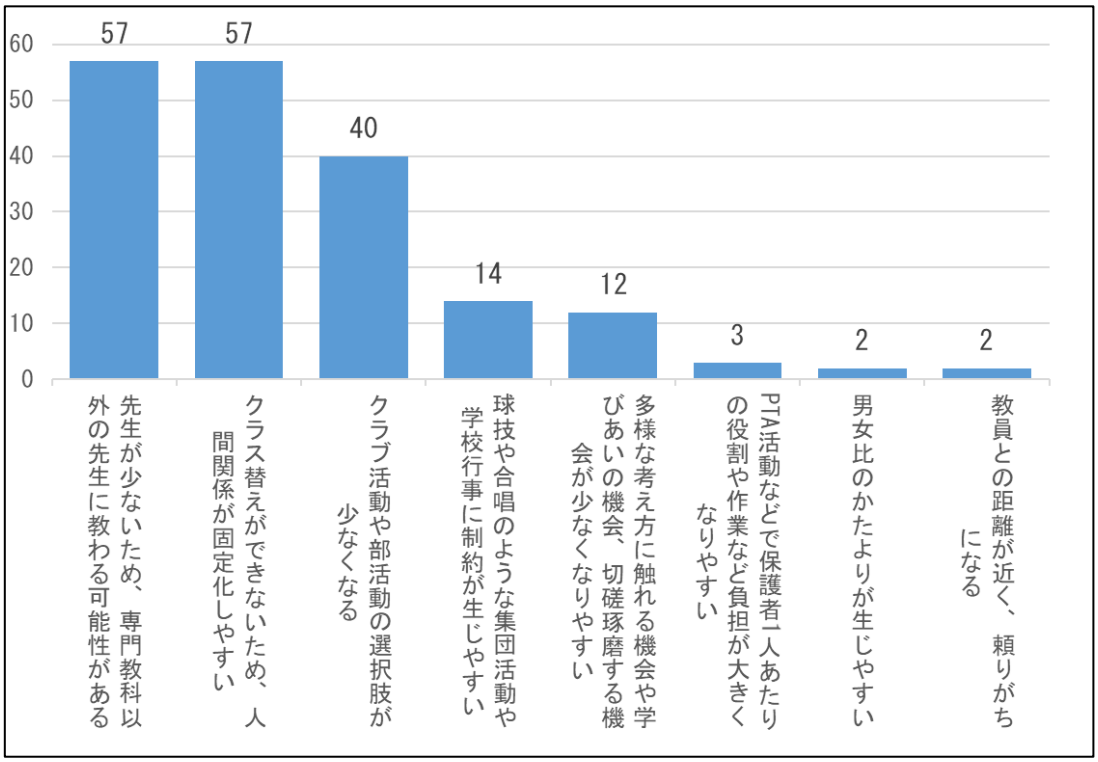
【結果概要】

- 人間関係の固定化や多様な考え方に触れる機会の減少、先生が少なくなる事による授業の質の低下など、教育を通じた人間形成に資する環境を重視する回答が多くなった一方で、PTA 活動など保護者負担に関する回答は少ない傾向がみられた。（図表 4-7、4-8 参照）
- 男性は、人間関係の固定化や先生が少なくなる事による授業の質の低下を重視する一方で、女性は人間関係の固定化や多様な考え方に触れる機会の減少を重視している傾向がみられ、男女で回答の差異がみられました。（図表 4-9 参照）
- 丹原・小松地区では、クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなると回答した比率が他の地区より高く、生徒数の減少による部活動等の選択肢の減少について懸念されている方が多い傾向がみられました。（図表 4-11 参照）
- 小規模な中学校においても、クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなると回答した比率が高い傾向がみられました。（図表 4-12 参照）

図表 4-7 によると、「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-8 によると、第 2 選択では「先生が少ないため、専門教科以外の先生に教わる可能性がある」「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した人が最も多くなり、次いで「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答した方が多くなりました。

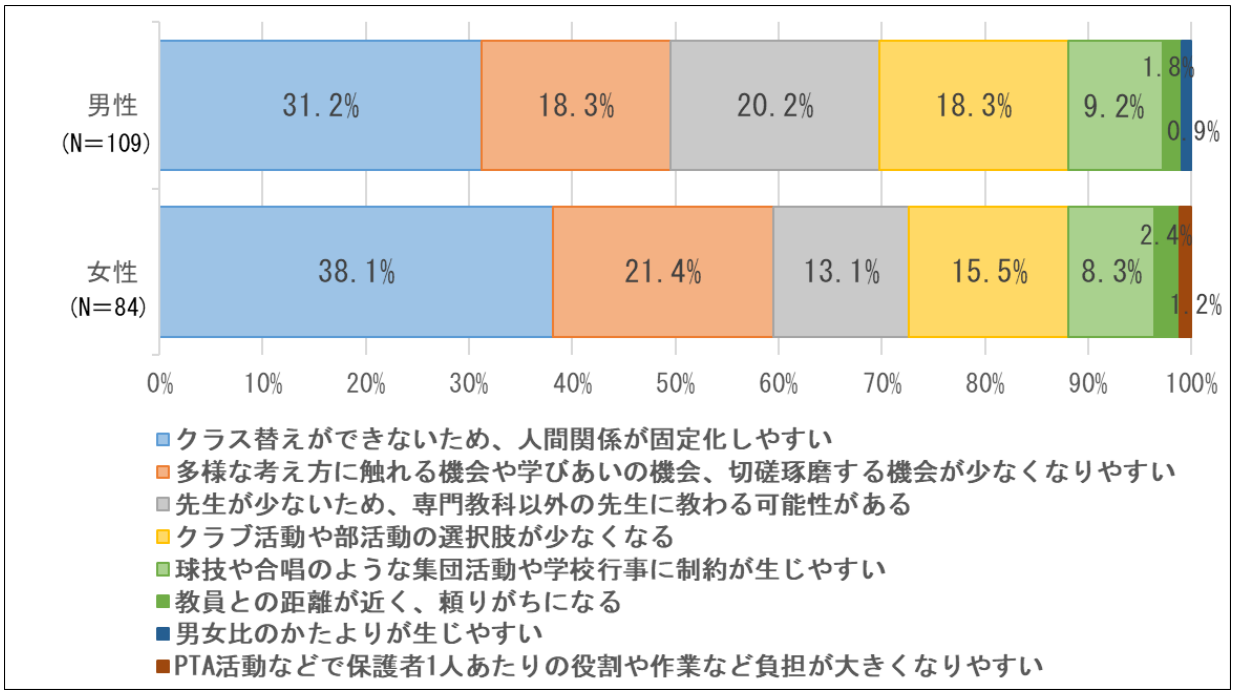


図表４－７　小規模校の課題（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２１０）



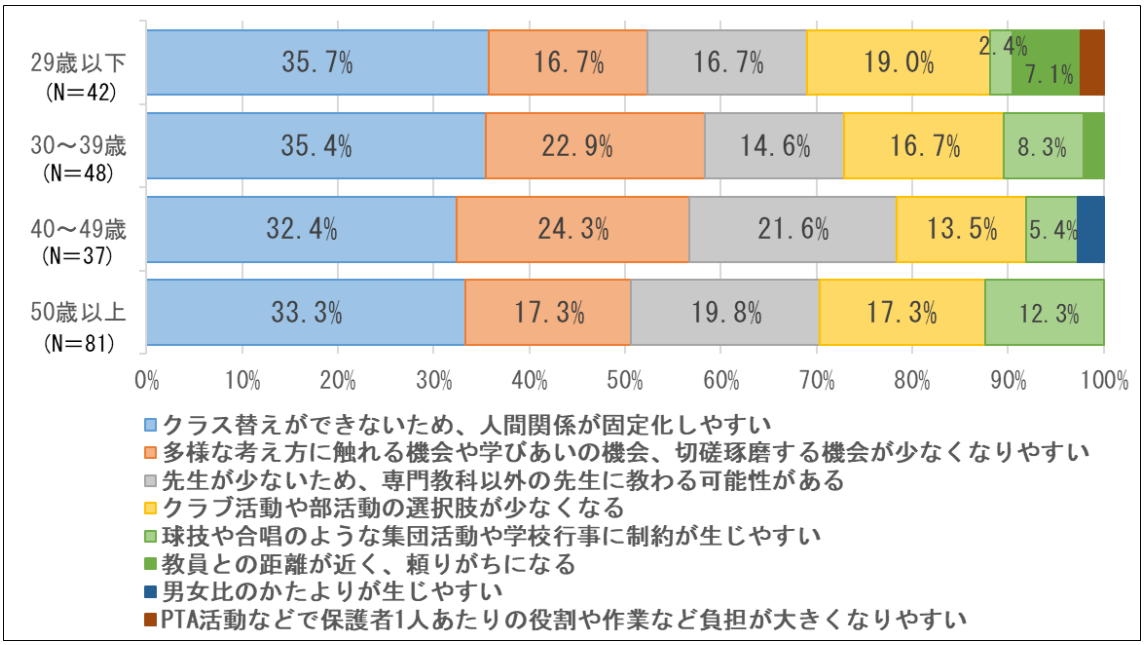
図表４－８　小規模校の課題（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１８７）

図表 4-9 によると、男性は「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「先生が少ないため、専門教科以外の先生に教わる可能性がある」と回答した比率が高くなりました。女性は「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した比率が高くなりました。



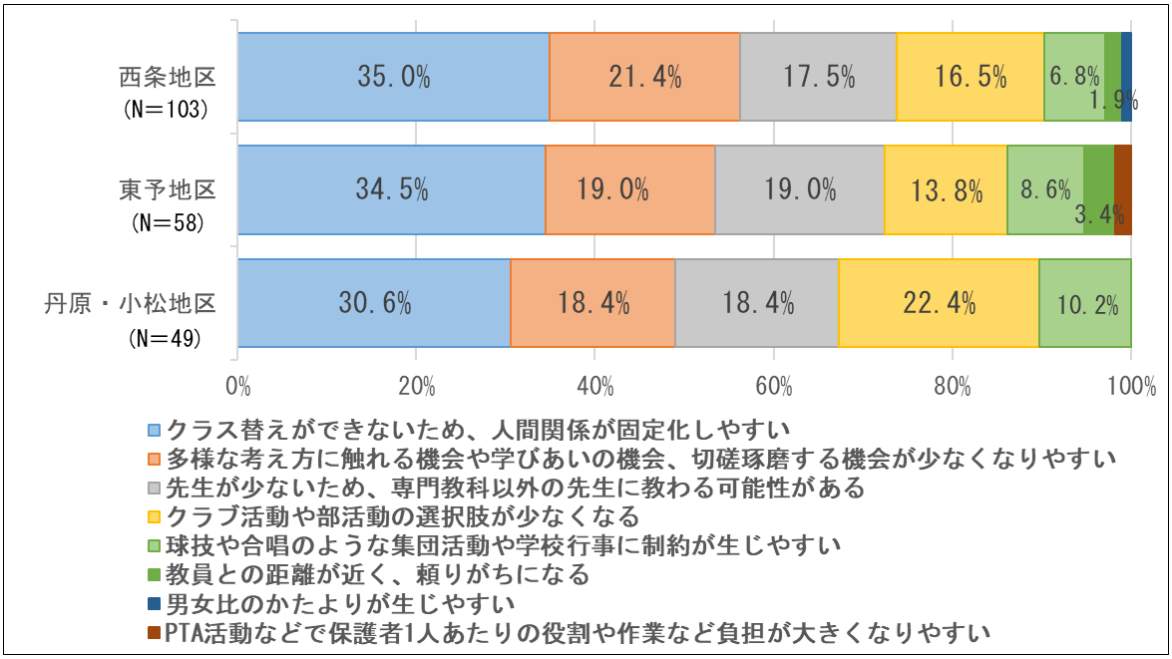
図表４－９　小規模校の課題（第１選択・男女別）

図表 4-10 によると、全体では「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した比率が高くなりました。一方、29 歳以下の年齢では「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」、40～49 歳および 50 歳以上の年齢においては「先生が少ないため、専門教科以外の先生に教わる可能性がある」と回答した比率が他の年齢より高い傾向がみられました。



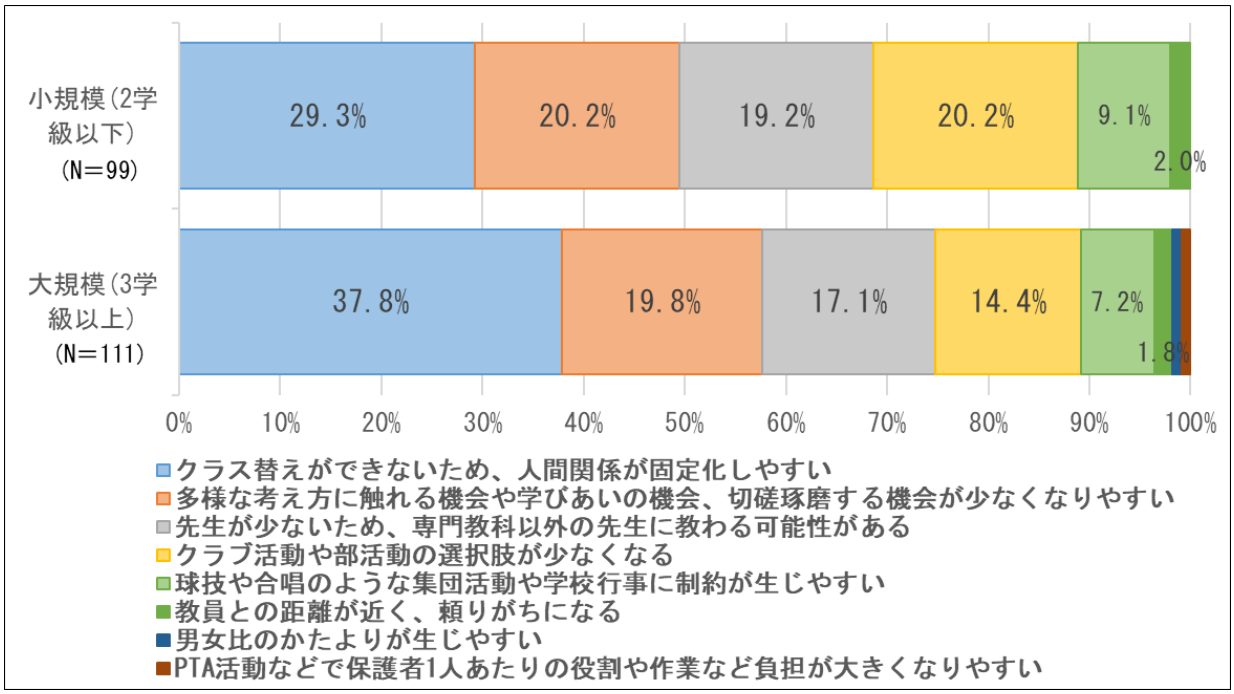
図表４－１０　小規模校の課題（第１選択・年齢別）

図表 4-11 によると、全体では「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した比率が高くなりました。一方、丹原・小松地区では「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答した比率が他の地区に比べて高い傾向がみられました。



図表４－１１　小規模校の課題（第１選択・所属する中学校の地区別）

図表 4-12 によると、すべての中学校の規模で「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなる一方で、小規模（2 学級以下）では「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答する比率が大規模（3 学級以上）より高く、項目によって回答する比率に差異があることがわかりました。



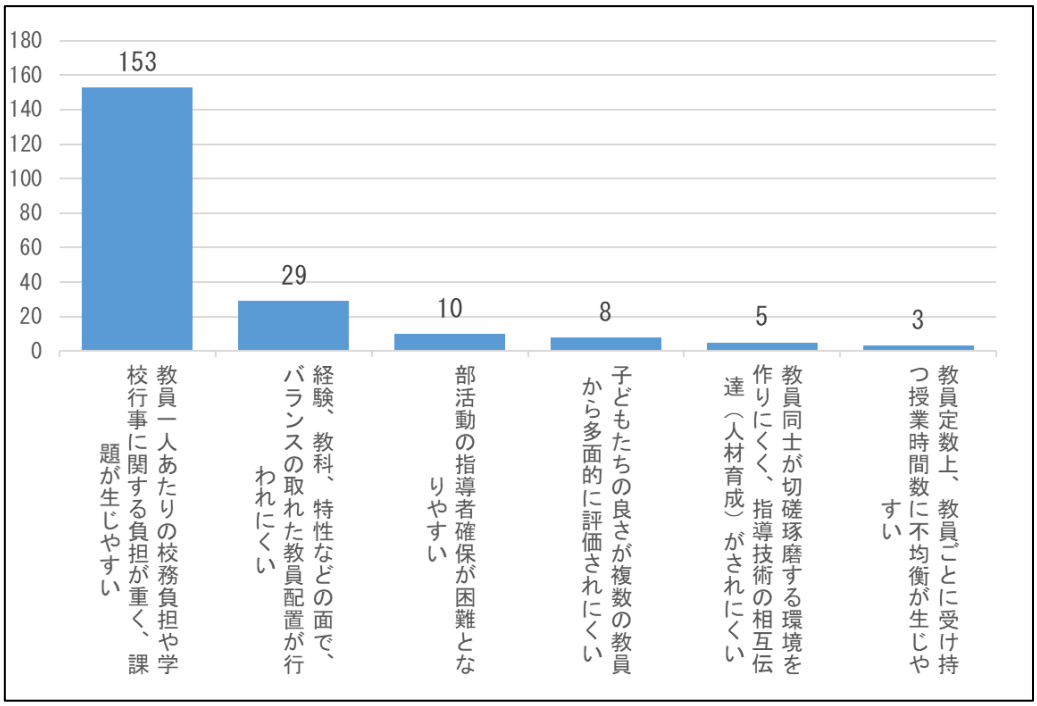
図表４－１２　小規模校の課題（第１選択・所属する中学校の 3 年生規模別）

（３）小規模校における学校運営上の課題

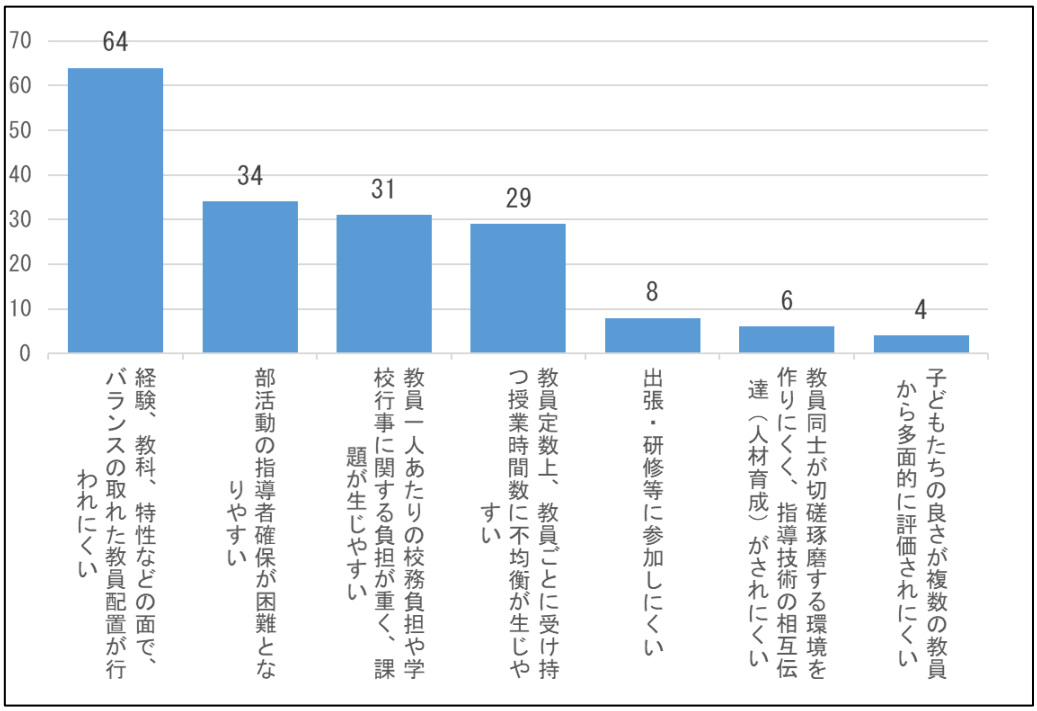
【結果概要】

- 教員が少なくなることで教員一人あたりの負担が増加する点や、バランスの取れた学校運営を図っていくための教員配置が行われにくくなる点、部活動の指導者確保が困難となるなど、教員配置数が減少することによる学校運営に係る質の低下を懸念する回答が多い傾向がみられました。（図表 4-13、4-14 参照）
- 年齢が高くなるにつれて学校運営上バランスの取れた教員配置を重視する傾向がみられましたが、逆に年齢が低くなるにつれて、教員一人あたりの負担が増えることによる新たな課題が発生することを懸念している方が多い傾向がみられました。（図表 4-16 参照）
- 教員一人あたりの負担についての回答は、小規模な学校で重視している方が多い傾向がみられました。（図表 4-18 参照）

図表 4-13 によると、第 1 選択では「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-14 によると、第 2 選択では「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した方が最も多くなり、次いで「部活動の指導者確保が困難となりやすい」と回答した方が多くなりました。

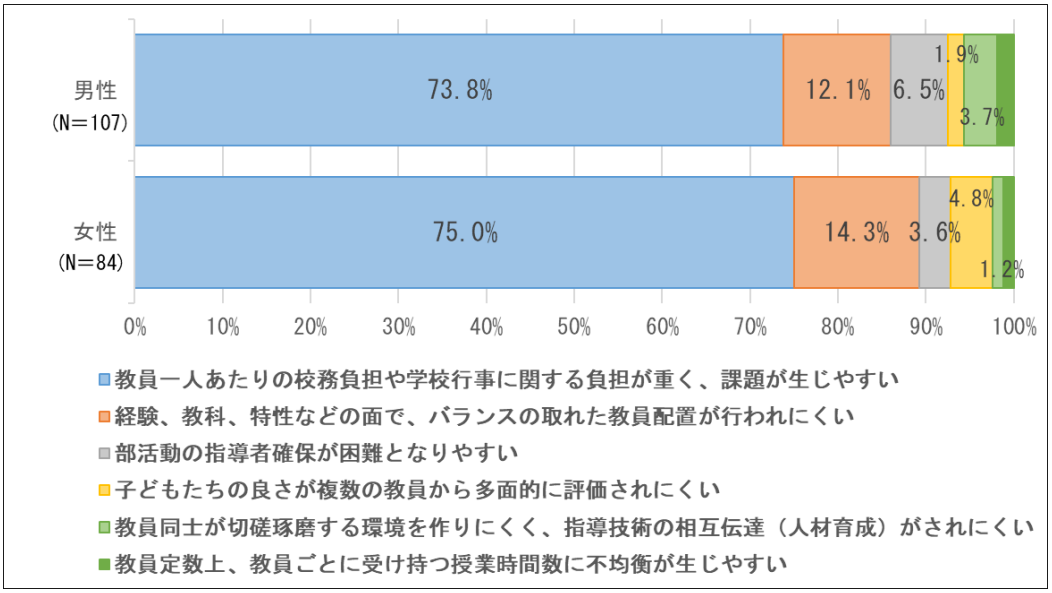


図表４－１３　小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題
（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２０８）



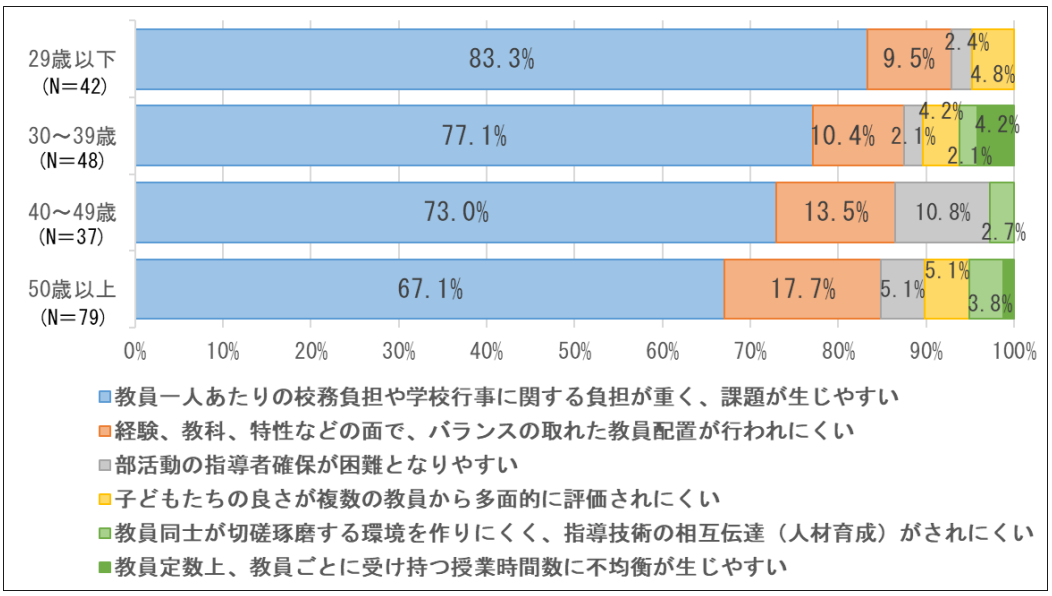
図表４－１４　小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題
（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１７６）

図表 4-15 によると、男女ともに「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した比率が高くなりました。



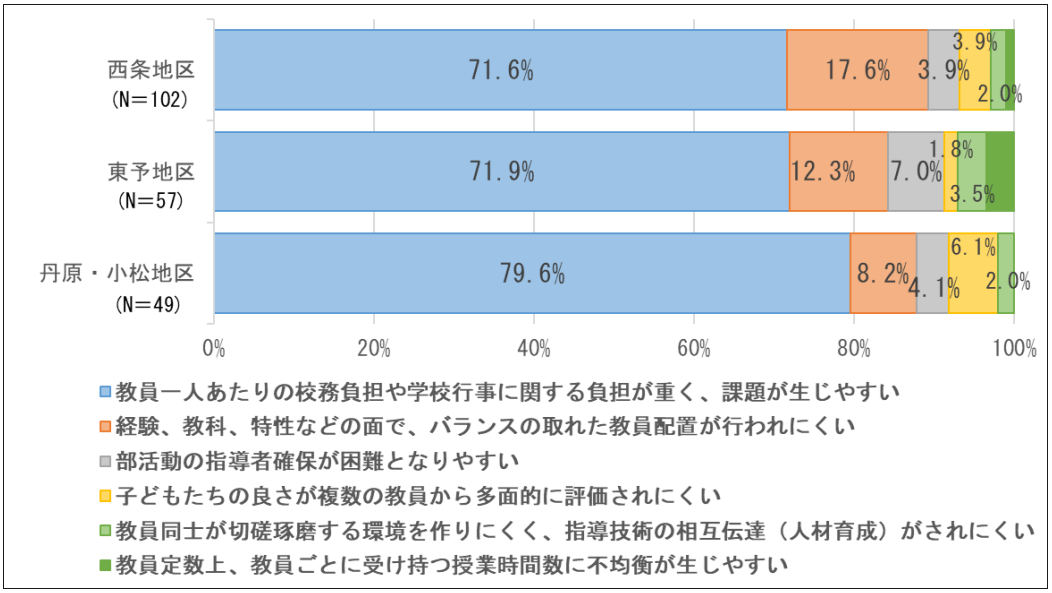
図表４－１５　小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題
（第１選択・男女別）

図表 4-16 によると、年齢が低くなるにつれて「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した比率が高くなる傾向がみられる一方で、年齢が高くなるにつれて「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。また、40～49 歳では「部活動の指導者確保が困難となりやすい」の回答が他の年齢より多い傾向がみられました。



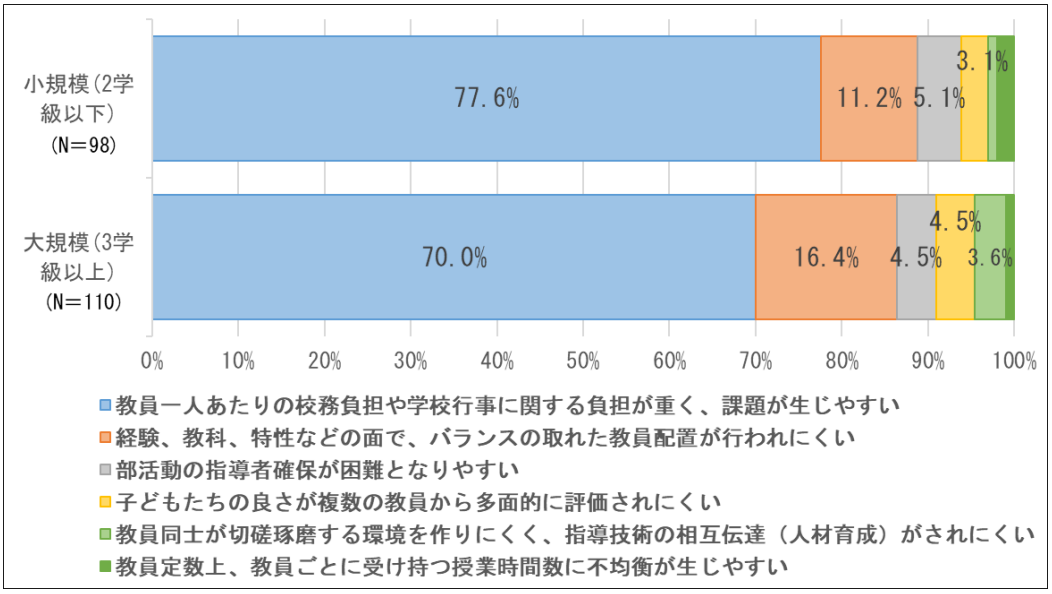
図表４－１６　小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題
（第１選択・年齢別）

図表 4-17 によると、すべての地区で「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した比率が最も高くなる一方で、地区によって回答が異なる傾向がみられました。



図表４－１７　小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題
（第１選択・所属する中学校の地区別）

図表 4-18 によると、中学校の規模にかかわらず、「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した比率が高くなりました。どちらかといえば、大規模（3 学級以上）と比較して小規模（2 学級以下）で「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」、逆に小規模（2 学級以下）と比較して大規模（3 学級以上）で「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表４－１８　小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題
（第１選択・所属する中学校の 3 年生規模別）

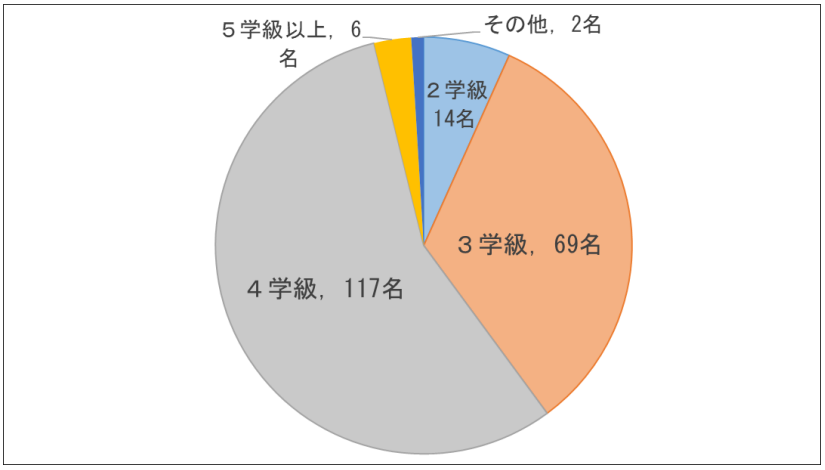
５　学級数と生徒数について

【結果概要】

- １学年あたり３学級～４学級が適切であるという回答が約 9 割を占めました。(図表 5-1 参照)
- １学級あたりで適切だと思う生徒数では、「21～25 人」が 25.4%、「26～30 人」が 50.7%、「31～35 人」が 20.1%という結果となり、「26～30 人」と回答した方が最も多くなりました。(図表 5-2 参照)

（１）１学年あたりで適切だと思う学級数

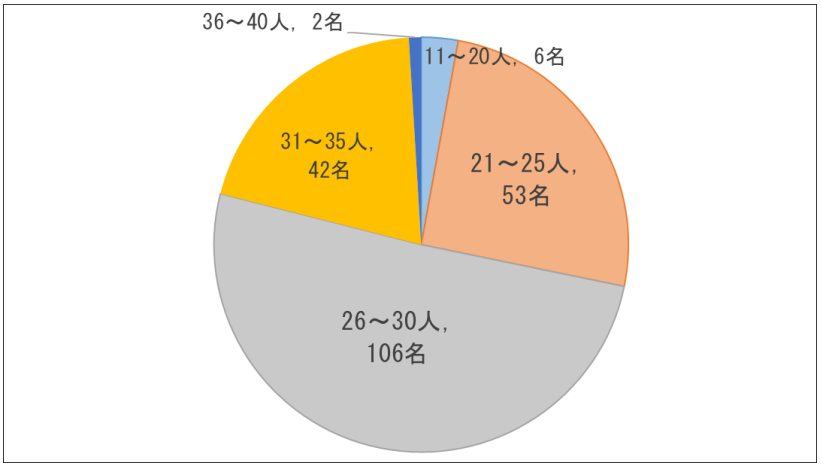
図表 5-1 によると、「４学級」と回答した方が最も多くなり、次いで「３学級」と回答した方が多くなりました。1 学年あたり 3 学級以上が適切だとした回答が全体の約 9 割を占める結果となりました。



図表５－１　１学年あたりで適切だと思う学級数（単純集計）（Ｎ＝２０８）

（２）１学級あたりで適切だと思う生徒数

図表 5-2 によると、「26～30 人」と回答した方が最も多くなり、次いで「21～25 人」「31～35 人」と回答した方が多くなりました。



図表５－２　１学級あたりで適切だと思う生徒数（単純集計）（Ｎ＝２０９）

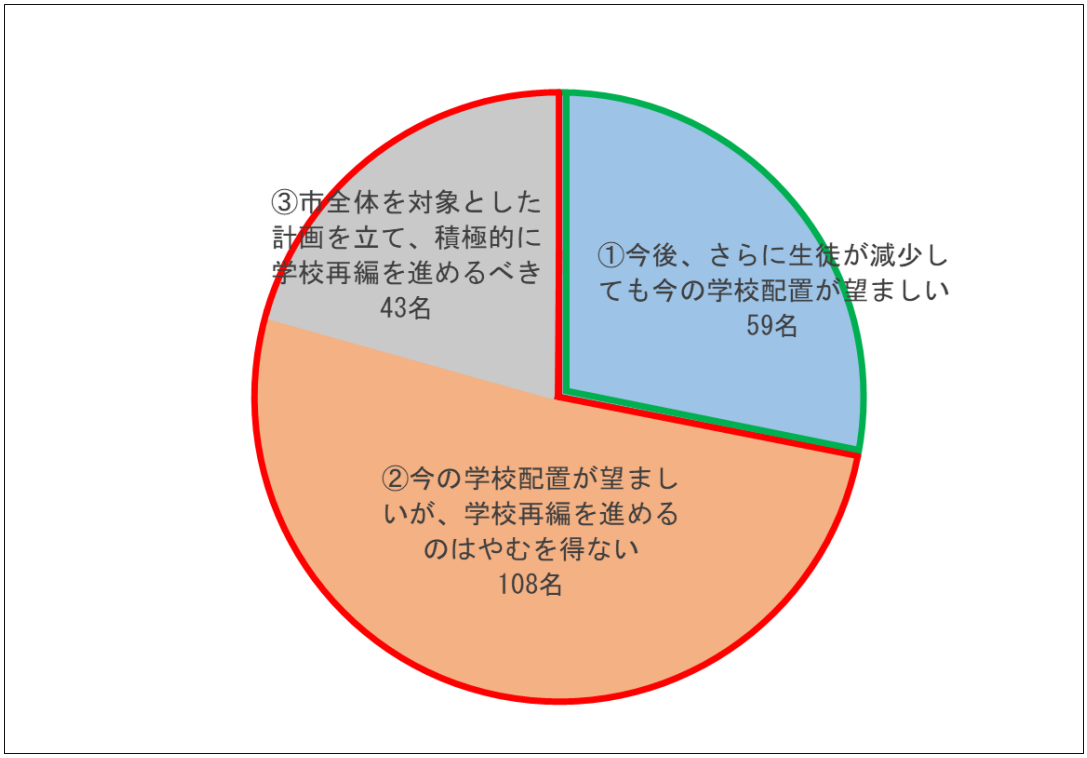
６　学校規模適正化に係る学校再編について

（１）将来的に中学校の再編をどのようにしていくべきか

【結果概要】

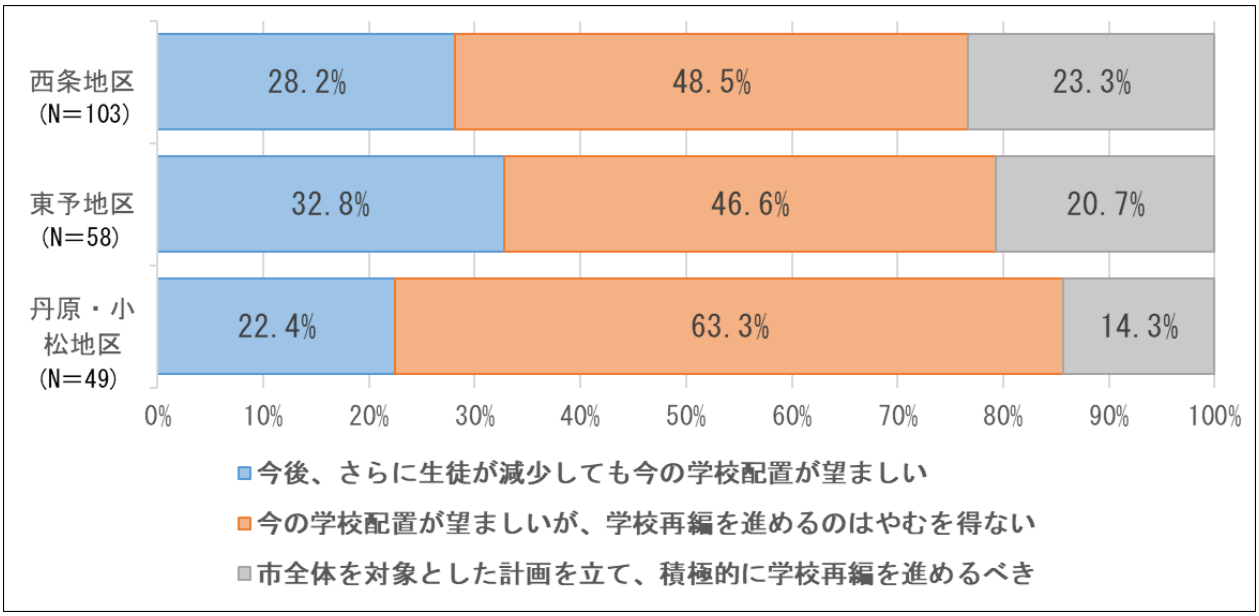
- 今の学校配置が望ましいと回答した方 28.1%に対して、学校再編を進めることはやむを得ない・積極的に学校再編を進めるべきとした回答が 71.9%を占め、学校再編を進めていくことへの回答が多い結果となりました。（図表 6-1 参照）
- 今の学校配置が望ましいと回答した方の理由として、学校は地域の活動拠点であるため学校が無くなることで、地域の衰退に繋がることを懸念されている方の回答が多い傾向がみられました。特に、丹原・小松地域や、小規模の学校で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答する比率が高くなりました。（図表 6-3、6-5、6-6 参照）
- 学校再編を進めることはやむを得ない・積極的に学校再編を進めるべきと回答した方の理由として、適正な教員配置による授業の質の向上や、多くの友達や教員の意見・考えに触れることで多様な価値観を培うことが大切であると回答した方が多くなりました。多様性に触れることが大切だとした回答では、西条地区で回答の比率が高くなる傾向がみられました。（図表 6-7、6-8、6-9 参照）

図表 6-1 によると、「②今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」と回答した方が最も多くなり、次いで「①今後、さらに生徒が減少しても今の学校配置が望ましい」と回答した方が多くなりました。今後、学校再編が必要であるとした回答が全体の約 7 割を占める結果となりました。



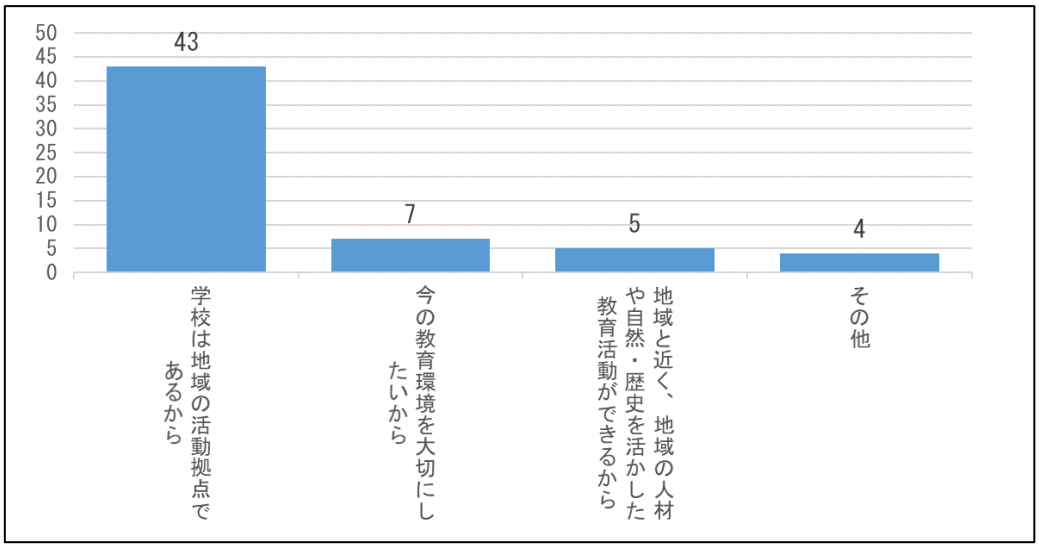
図表６－１　将来的に望ましいと思う学校配置（単純集計）（Ｎ＝２１０）

図表 6-2 によると、他の地区と比べて丹原・小松地区で学校再編に向けた回答の比率が高くなる傾向がみられました。

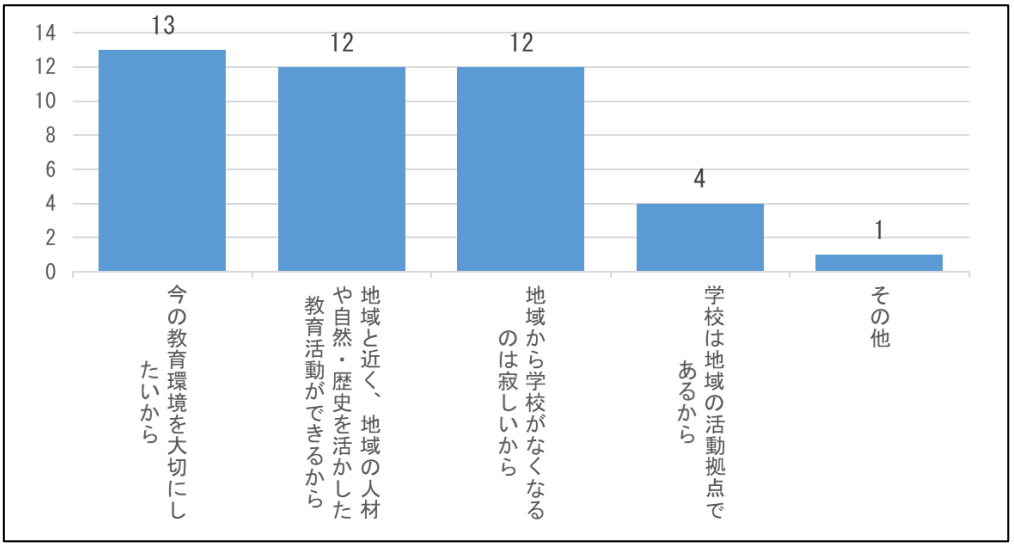


図表６－２　将来的に望ましいと思う学校配置（所属する中学校の地区別）（Ｎ＝２１０）

図表 6-3～6-6 は、図表 6-1 で「①今後、さらに生徒が減少しても今の学校配置が望ましい」を選択した理由についての回答です。図表 6-3 によると、第 1 選択では「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した方が最も多くなりました。また、図表 6-4 によると、第 2 選択では「今の教育環境を大切にしたいから」と回答した方が最も多く、次いで「地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから」「地域から学校がなくなるのは寂しいから」と回答した方が多くなりました。

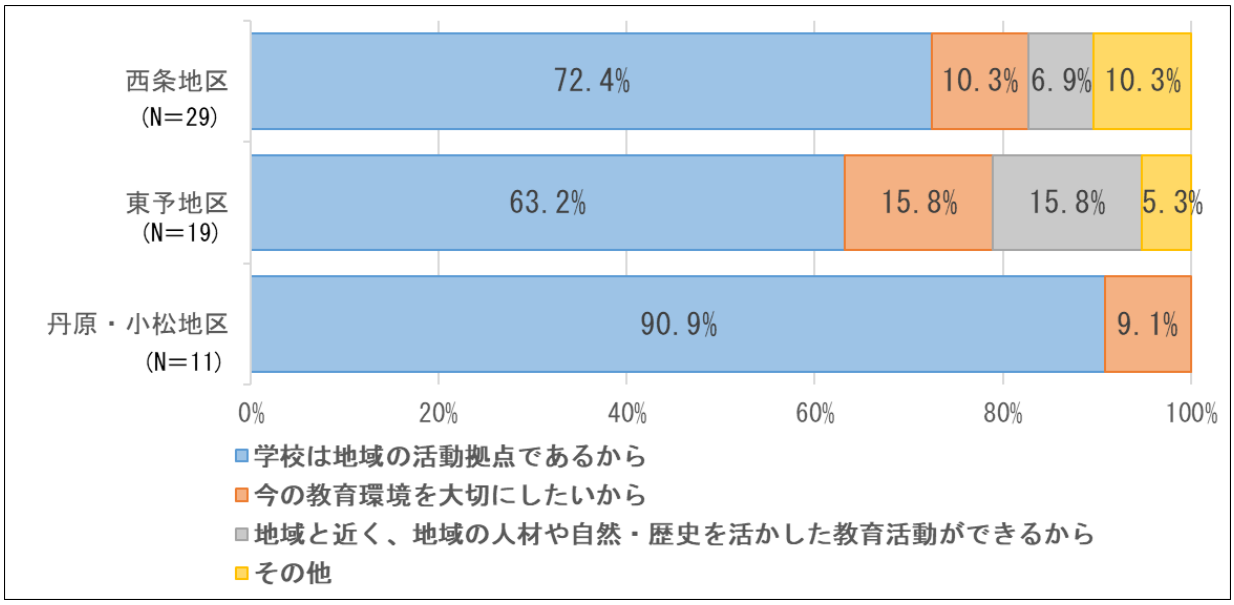


図表６－３　図表６－１で①を選択した方の理由（第１選択・単純集計）（Ｎ＝５９）



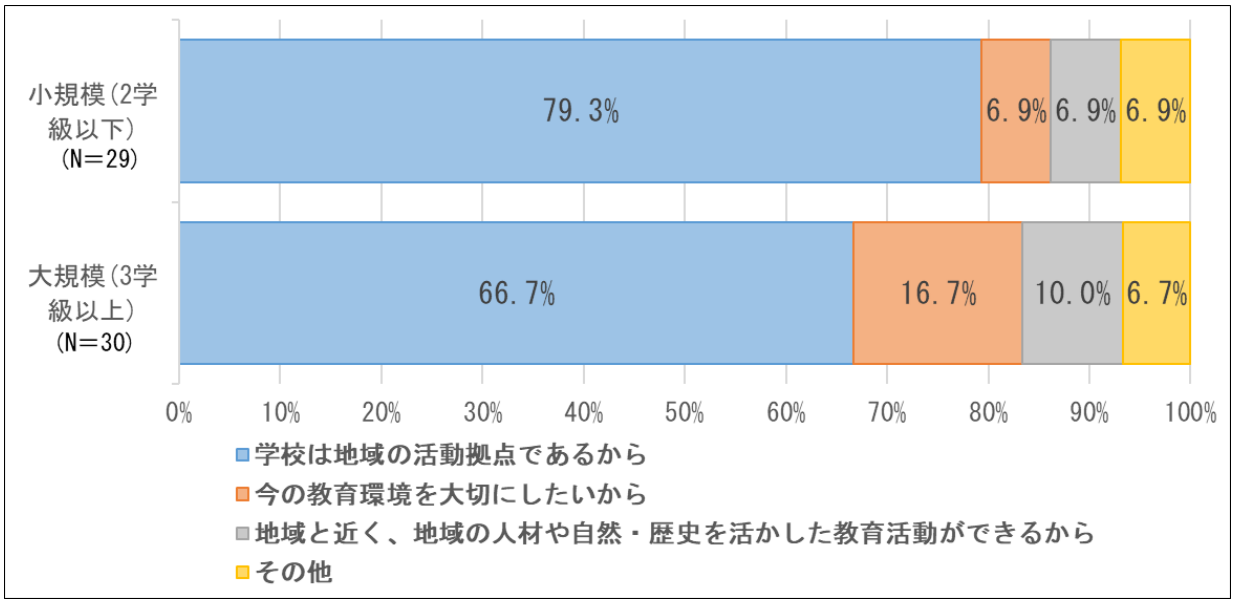
図表６－４　図表６－１で①を選択した方の理由（第２選択・単純集計）（Ｎ＝４２）

図表 6-5 によると、すべての地区で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した比率が最も高く、丹原・小松地区では他の地区に比べても特に回答した比率が高くなりました。



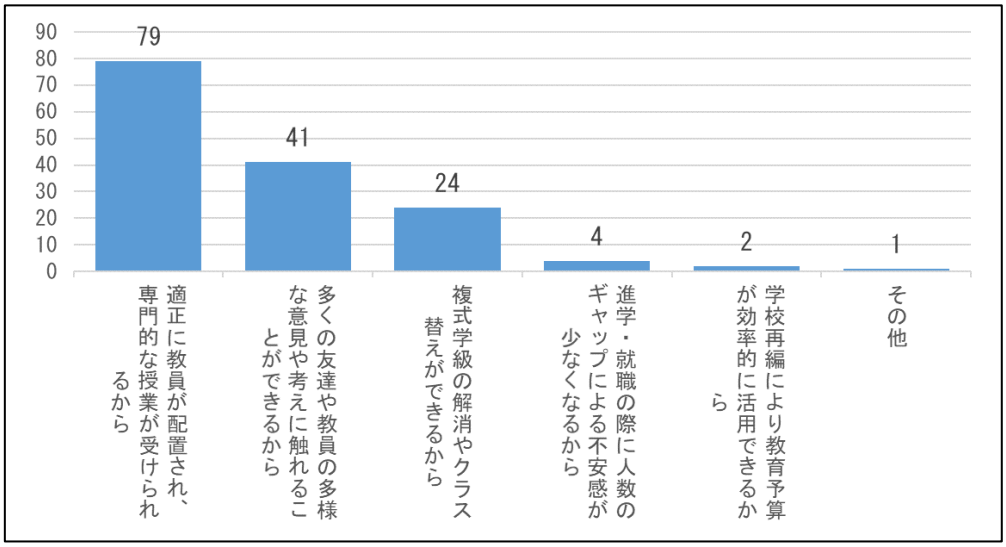
図表６－５　図表６－１で①を選択した方の理由（第１選択・所属する中学校の地区別）

図表 6-6 によると、すべての中学校の規模で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した比率が高く、とくに小規模（2 学級以下）で同回答についての比率が高くなる傾向がみられました。一方、大規模（3 学級以上）では「今の教育環境を大切にしたいから」「地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから」と回答した比率が、小規模（2 学級以下）に比べて高くなる傾向がみられました。

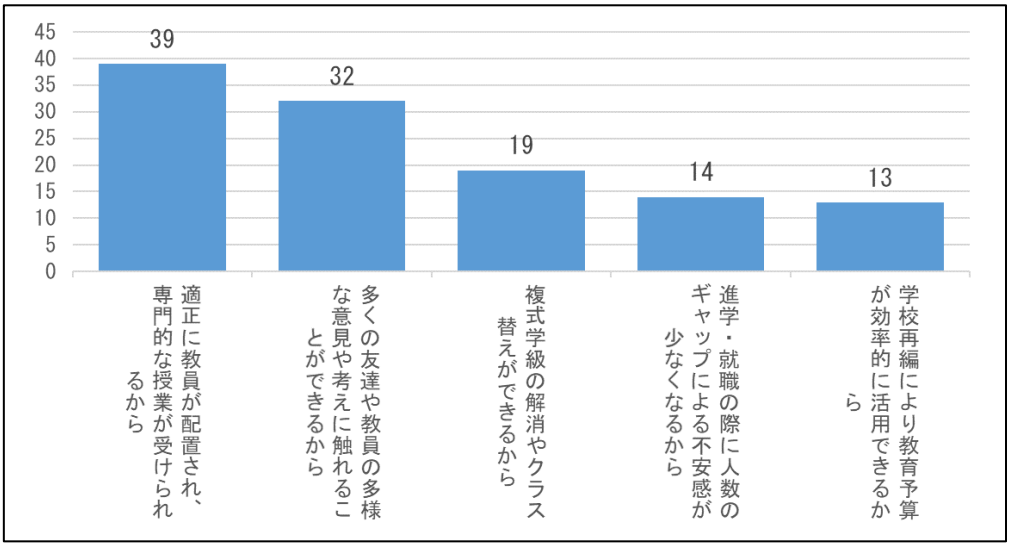


図表６－６　図表６－１で①を選択した方の理由（第１選択・所属する中学校の 3 年生規模別）

図表 6-7～6-10 は、図表 6-1 で「②今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」又は「③市全体を対象とした計画を立て、積極的に学校再編を進めるべき」を選択した理由についての回答です。第 1 選択（図表 6-7）、第 2 選択（図表 6-8）ともに「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答した方が最も多く、次いで「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した方が多くなりました。

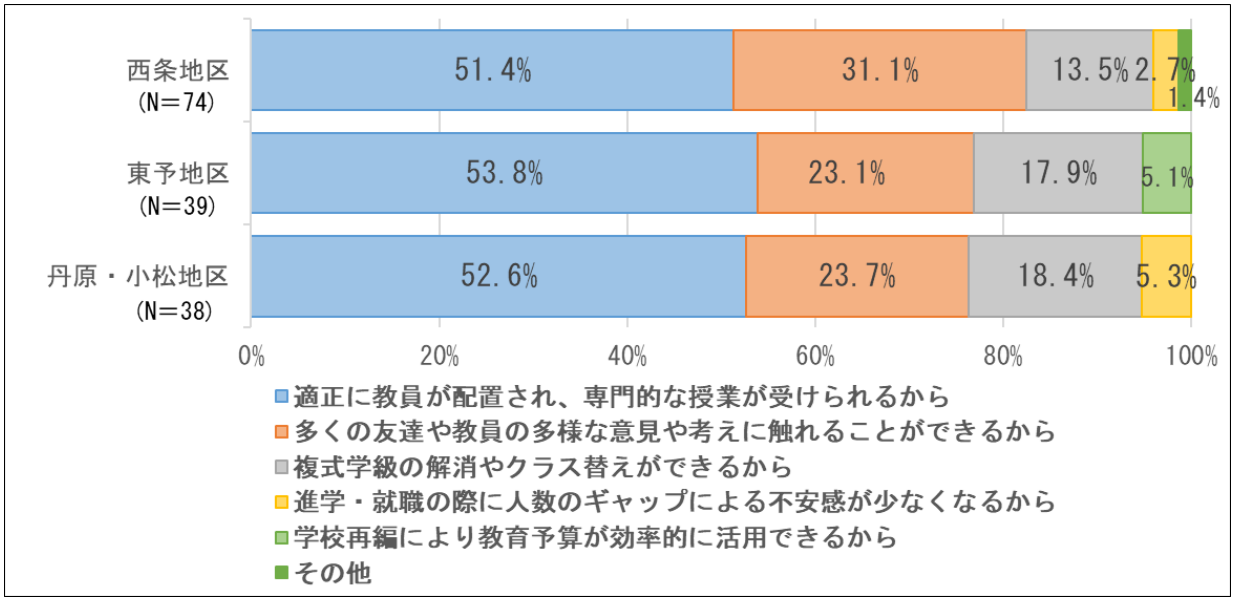


図表６－７　図表６－１で②又は③を選択した方の理由（第１選択・単純集計）（Ｎ＝１５１）



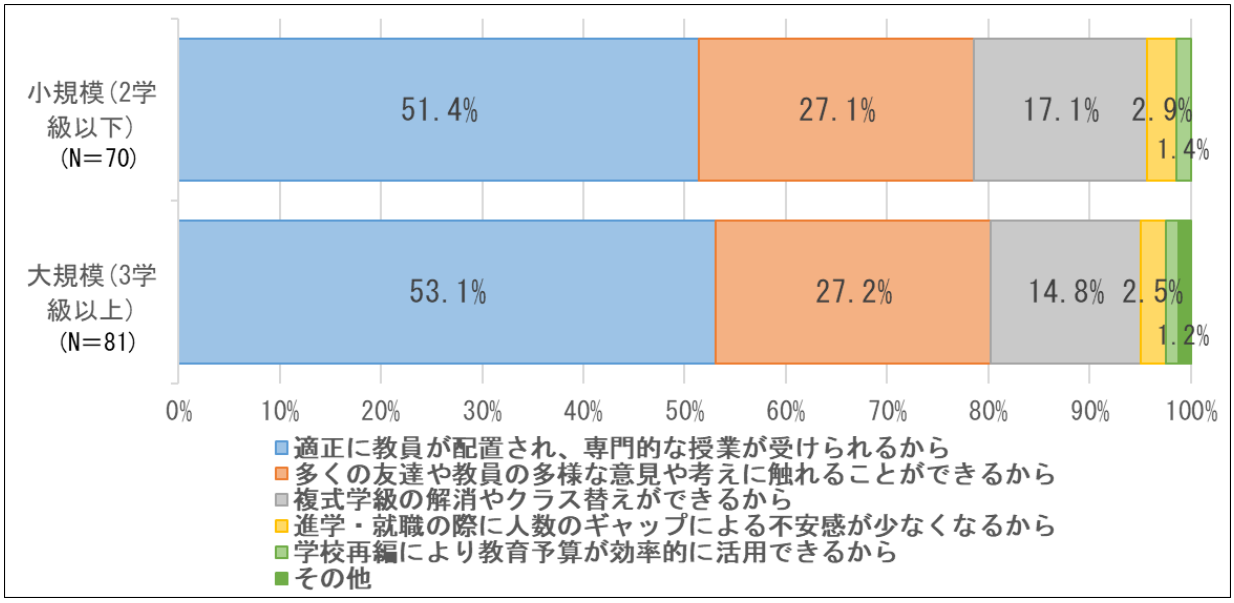
図表６－８　図表６－１で②又は③を選択した方の理由（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１１７）

図表 6-9 によると、すべての地区で「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答した比率が最も高く、次いで「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した比率が高くなりました。



図表６－９　図表６－１で②又は③を選択した方の理由（第１選択・所属する中学校の地区別）

図表 6-10 によると、すべての中学校の規模で「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答した比率が最も高く、次いで「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した比率が高くなりました。



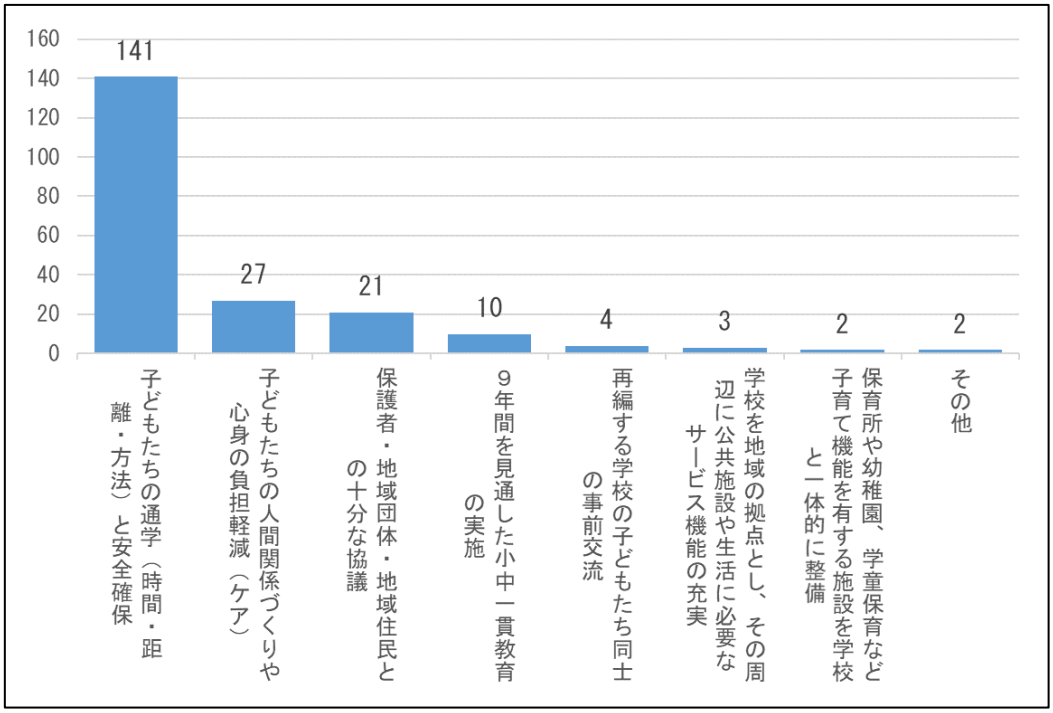
図表６－１０　図表６－１で②又は③を選択した方の理由
（第１選択・所属する中学校の 3 年生規模別）

（２）中学校の学校再編を進める場合に配慮が必要な点

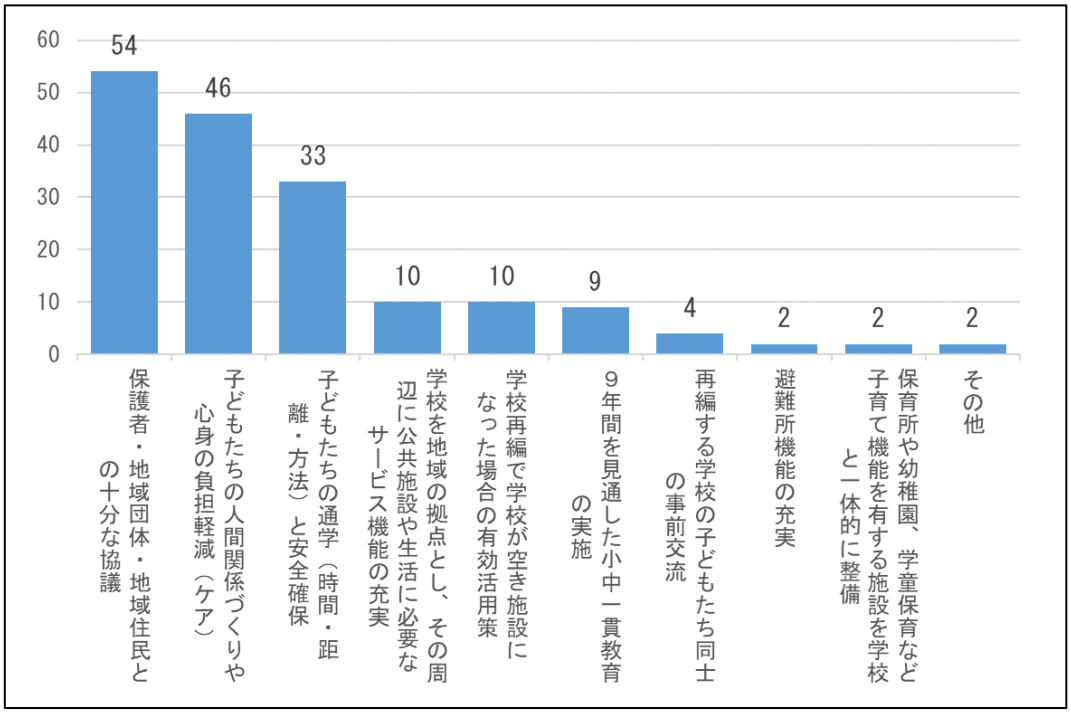
【結果概要】

- 子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保を望む声が最も多くなる一方で、子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減、保護者や地域住民等との十分な協議など、環境が変わることへの配慮を重視した回答も多くなりました。（図表 6-11、6-12 参照）
- 所属する中学校の地区別、所属する中学校の規模別に大きな差異はみられませんが、東予地区と小規模の学校で、通学の安全確保を望む声が多い傾向がみられました。（図表 6-13、6-14 参照）

図表 6-11 によると、第 1 選択では「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した方が最も多くなり、次いで「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-12 によると、第 2 選択では「保護者・地域団体・地域住民との十分な協議」と回答した方が最も多くなり、次いで「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した方が多くなりました。

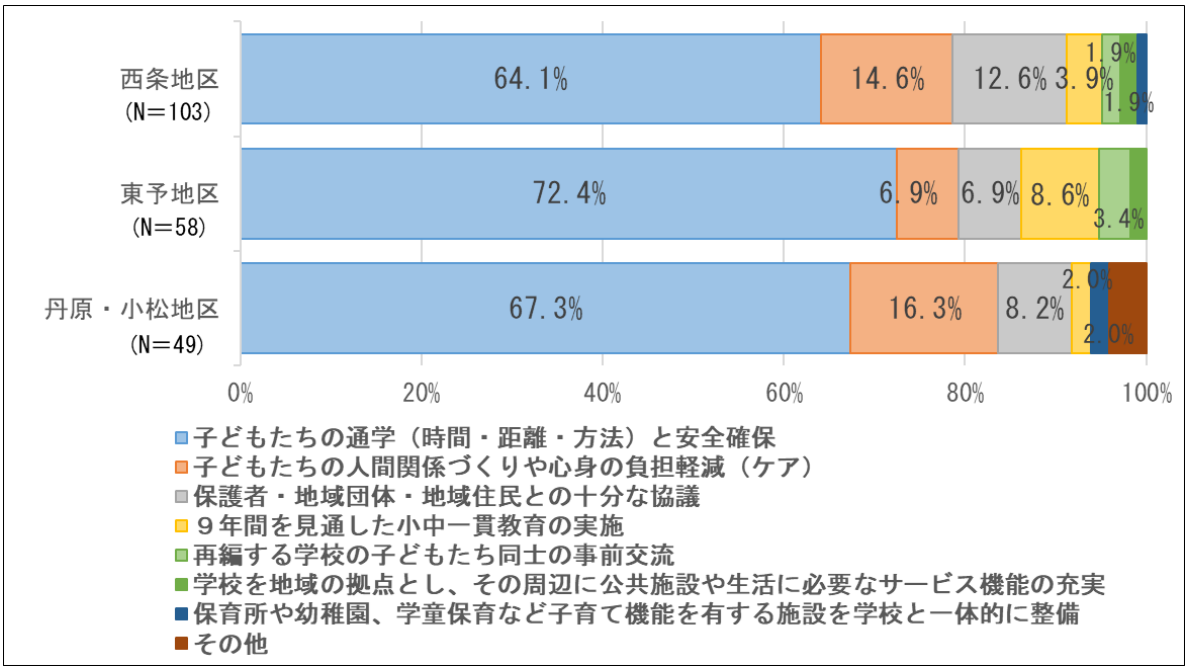


図表６－１１　学校再編を進めるために配慮が必要な点（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２１０）



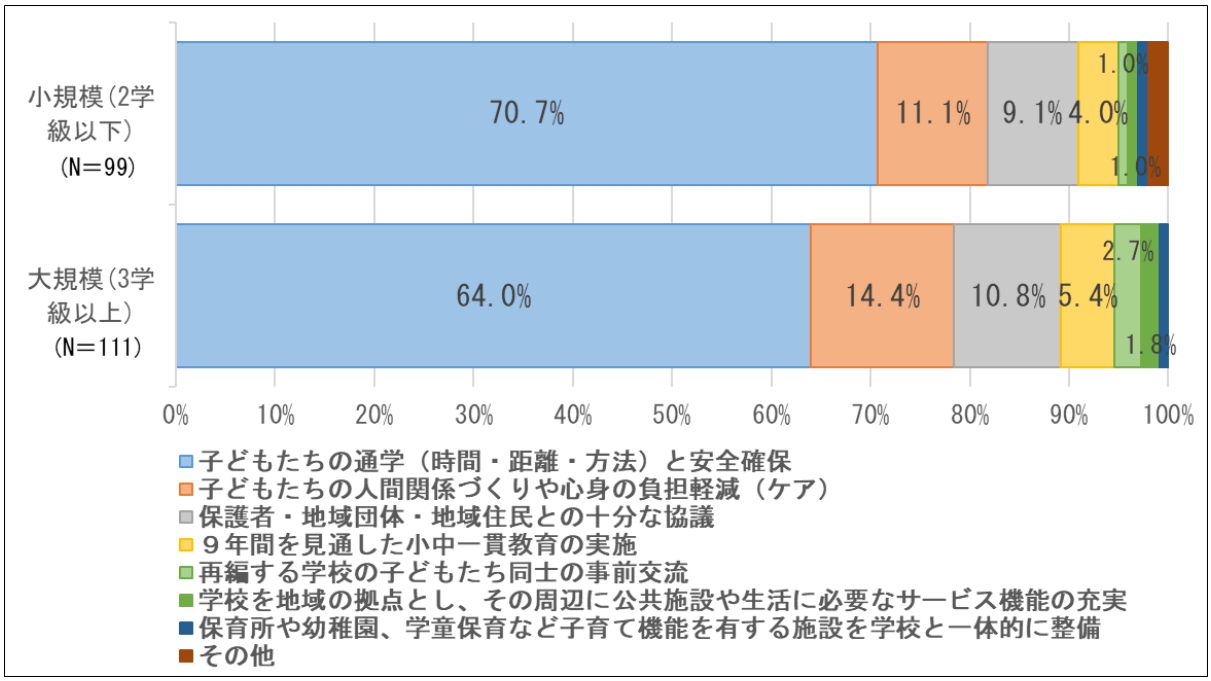
図表６－１２　学校再編を進めるために配慮が必要な点（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１７２）

図表 6-13 によると、すべての地区で「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した比率が最も高くなりました。次いで、西条地区、丹原・小松地区で「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した比率が高くなる一方で、東予地区では「9 年間を見通した小中一貫教育の実施」と回答した比率が高くなりました。



図表６－１３　学校再編を進めるために配慮が必要な点（第１選択・所属する中学校の地区別）

図表 6-14 によると、すべての中学校の規模で「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した比率が高くなりました。



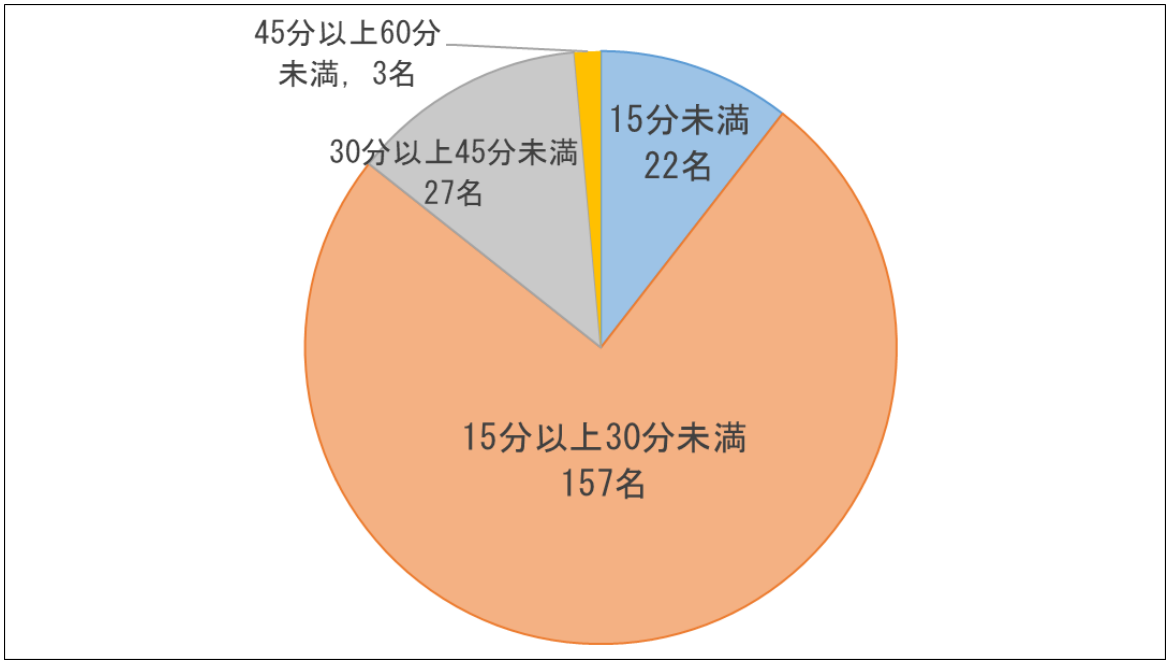
図表６－１４　学校再編を進めるために配慮が必要な点
（第１選択・所属する中学校の 3 年生規模別）

（３）中学校の学校再編を進める場合の通学に関して配慮が必要な点

【結果概要】

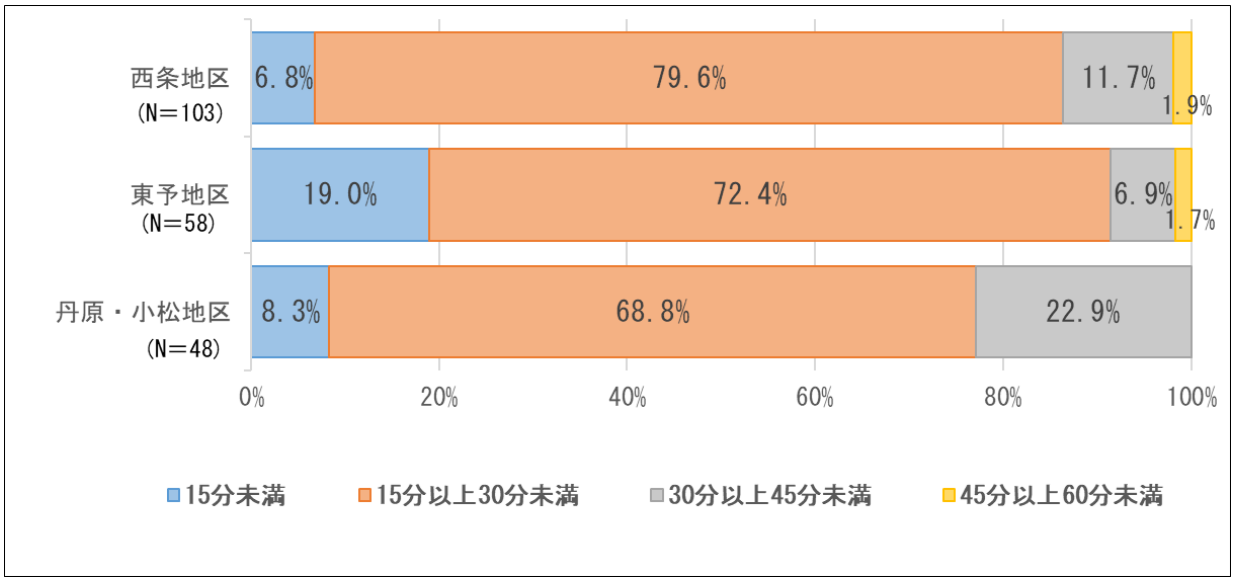
- 生徒が安全に通学できる時間の許容範囲は、15 分以上 30 分未満との回答が多い結果となりました。（図表 6-15 参照）
- 所属する中学校の地区別では、東予地区では他の地区に比べて通学できる時間の許容範囲が短い時間での回答が多い傾向がみられた一方で、丹原・小松地区では他の地区に比べて長い時間での通学も許容範囲であるとの回答が多い傾向がみられました。（図表 6-16 参照）
- 所属する中学校の規模別に大きな差異はみられませんが、小規模の学校のほうが長い時間での通学も許容範囲であるとの回答が多い傾向がみられました。（図表 6-17 参照）
- 通学時間の許容範囲で生徒が安全に通学するためには、定められた通学区域での学校に限らず、住所から近い学校への通学を認めるべきとした回答が最も多くなる一方で、スクールバスの運行を望む回答も多くなりました。（図表 6-18、6-19 参照）
- 所属する中学校の地区別、所属する中学校の規模別に大きな差異はみられませんが、東予地区では、自転車・徒歩での通学で構わないという回答が他の地区に比べて高くなる傾向がみられました。（図表 6-20、6-21 参照）

図表 6-15 によると、通学にかかる時間の許容範囲は「15 分以上 30 分未満」と回答した方が最も多く、次いで「30 分以上 45 分未満」と回答した方が多くなりました。



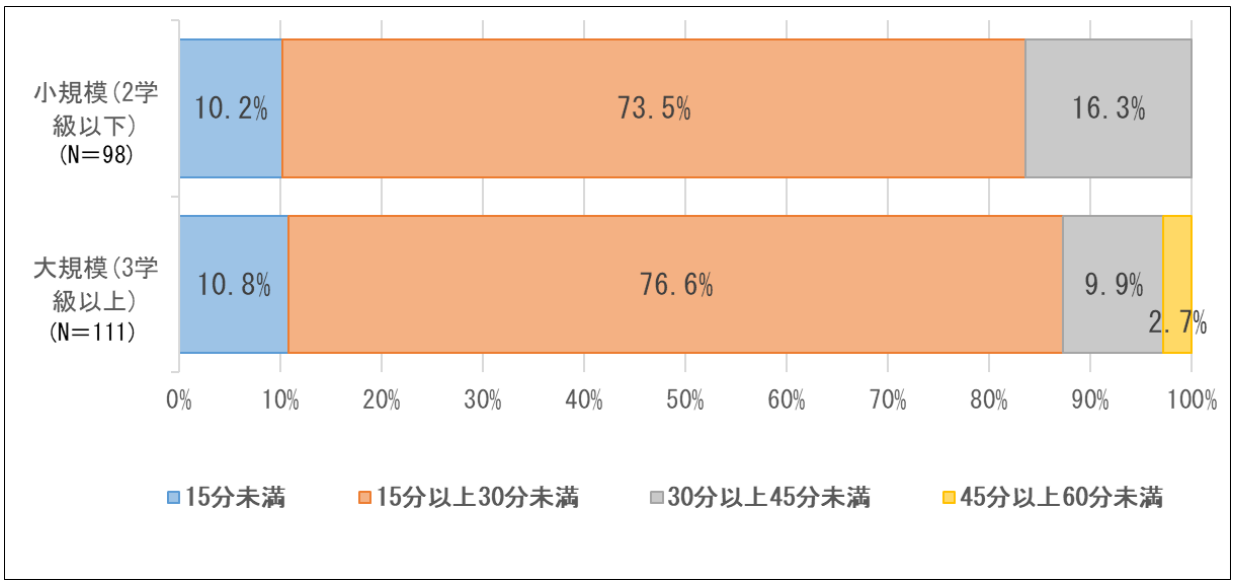
図表６－１５　中学生の通学にかかる時間の許容範囲（単純集計）（Ｎ＝２０９）

図表 6-16 によると、すべての地区で「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が最も高くなり、次いで「30 分以上 45 分未満」と回答した比率が高くなりました。東予地区では、他の地区と比べて「15 分未満」と回答する比率が高くなる一方で、丹原・小松地区では、「30 分以上 45 分未満」と回答する比率が他の地区と比べて高くなる傾向がみられました。



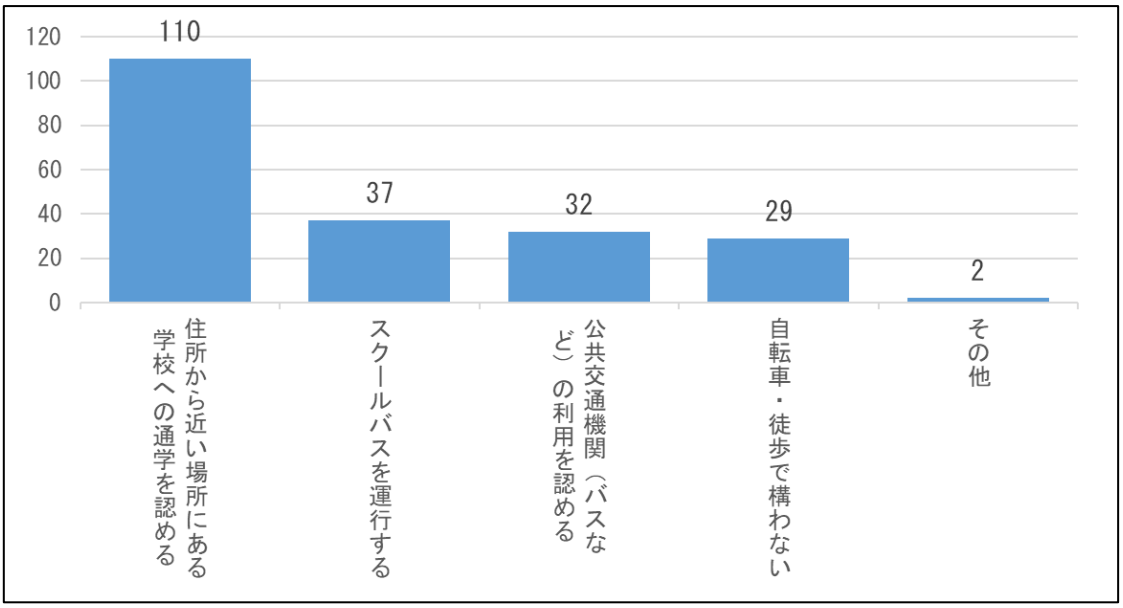
図表６－１６　中学生の通学にかかる時間の許容範囲（所属する中学校の地区別）

図表 6-17 によると、すべての中学校の規模で「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が最も高くなる一方で、小規模（2 学級以下）では「30 分以上 45 分未満」と回答した比率が大規模（3 学級以上）より高くなる傾向がみられました。

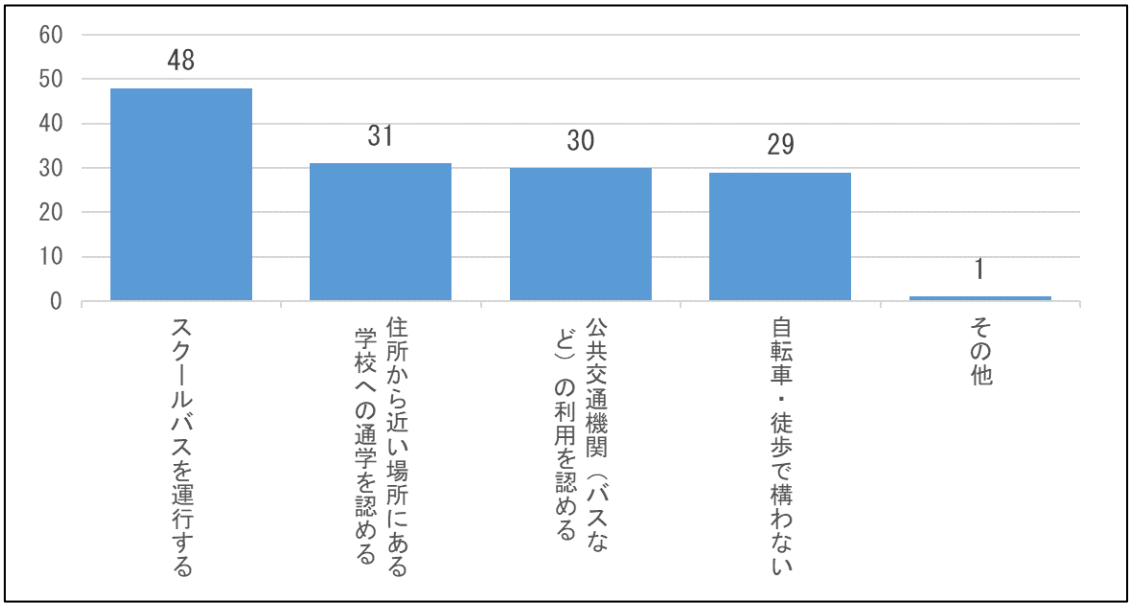


図表６－１７　中学生の通学にかかる時間の許容範囲（所属する中学校の 3 年生規模別）

図表 6-18 によると、第 1 選択では「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した方が最も多くなり、次いで「スクールバスを運行する」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-19 によると、第 2 選択では「スクールバスを運行する」と回答した方が最も多くなり、次いで「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した方が多くなりました。

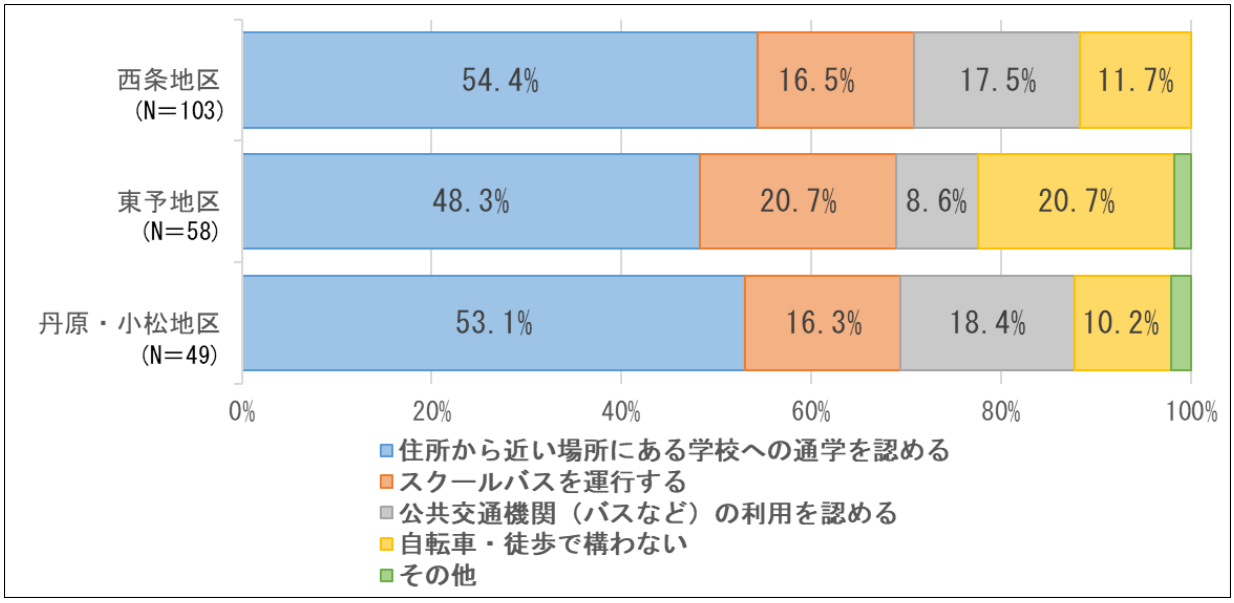


図表６－１８　図表６－１５で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２１０）



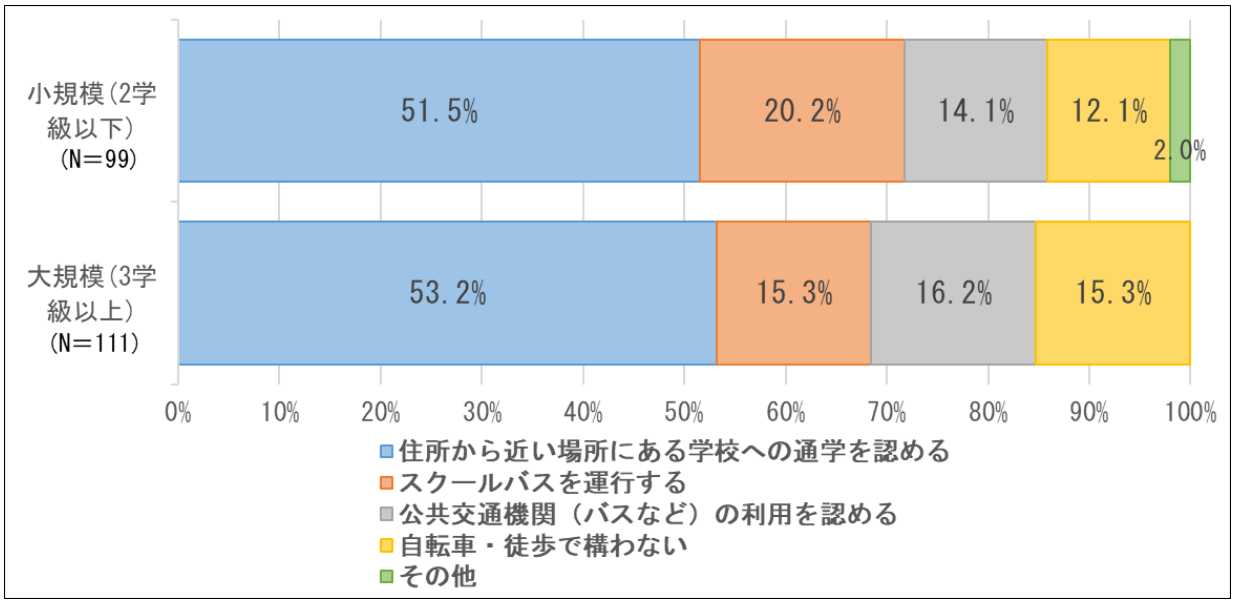
図表６－１９　図表６－１５で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１３９）

図表 6-20 によると、すべての地区で「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した比率が最も高くなり、次いで「スクールバスを運行する」と回答した比率が高くなりました。一方、東予地区では他の地区と比べて「自転車・徒歩で構わない」と回答する比率が高くなりました。



図表６－２０　図表６－１５で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
（所属する中学校の地区別）

図表 6-21 によると、すべての中学校の規模で「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した比率が最も高くなり、規模別で大きな差異はありませんでした。



図表６－２１　図表６－１５で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
（所属する中学校の 3 年生規模別）

7　参考資料（アンケート用紙）

西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査へのご協力のお願い
（中学校 教員用（校長先生、教頭先生も含みます））
～みなさまのご意見をお聞かせください～

西条市では、令和2年度に実施した「西条市の教育に関するアンケート調査」において、将来的な子どもたちの教育環境の充実を図るためには、一定程度の児童数・学級数が必要であるとの回答が多い傾向がみられ、西条市総合教育会議において、人口減少・少子高齢化社会の進展を見据えた今後の教育環境のあり方について議論を進めてきました。

そこで、西条市の次代を担う子どもたちの将来的な学校教育環境の最適化を図ることを目的に、学校規模適正化に関するアンケート調査を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年9月　　西条市長 玉井 敏久　　西条市教育長 伊藤 隆志

調 査 の 概 要

1 この調査用紙は、西条市立の中学校に勤務されている教員の方を対象（事務員除く）に配布しています。

2 この調査票は、個人を特定できないようになっており、調査終了後は速やかに廃棄いたします。

日ごろ、感じていることや思っていることをそのままご記入ください。

3 必ずご本人がご回答ください。

4 ご記入後、「調査票」を返信用の封筒に入れて、**9月29日(木曜日)までに各学校で集約していただき、以下の担当までご返送ください。**

5 ご不明な点などがありましたら、下記の担当へお問い合わせください。

※本アンケートにつきましては、西条市の学校規模適正化検討の基礎資料として活用させていただきます。

令和２年度
「西条市の教育に関するアンケート調査」の結果は
こちらから☞

〒７９３－８６０１
西条市明屋敷１６４番地
西条市 経営戦略部 政策企画課
TEL ：（０８９７）５６-５１５１（内線２１７９）
E-mail ： seisakukikaku@saijo-city.jp
西条市 教育委員会事務局 教育総務課
TEL ：（０８９７）５６-５１５１（内線５２２２）
E-mail ： kyoikusomu@saijo-city.jp

アンケート回答の参考に、ご一読ください。

西条市立小・中学校の児童・生徒数の推計について（第２期 西条市総合計画後基本計画（第２期西条市まち・ひと・しごと創生総合戦略）より抜粋）

（1）小学校児童数の推計

西条市の小学校児童数は減少し続け、2010 年時点で 1 学年あたり 1,000 人を超えていた児童数が 2045 年時点で 557 人と約半分まで減少します。

図１　西条市の全小学校児童数（7～12 歳）及び１学年児童数の推移

（単位：人）

出典：2010年及び2015年国勢調査を参考に西条市自治政策研究所が作成

（2）中学校生徒数の推計

西条市の中学校生徒数は減少し続け、2010 年時点で 1 学年あたり 1,000 人を超えていた生徒数が、2045 年時点で 558 人と小学校児童数と同様に約半分まで減少します。

図２　西条市の全中学校生徒数（13～15 歳）及び１学年生徒数の推移

（単位：人）

出典：2010年及び2015年国勢調査を参考に西条市自治政策研究所が作成

小学校においては、児童数 60 人（1 学年あたり 10 人）を基準とした場合、基準を下回る学校が 2045 年には 10 校まで増加します。また、中学校においては、生徒数 60 人（1 学年あたり 20 人）を基準とした場合、基準を下回る学校は 1 校のみですが、2045 年までに全小・中学校で児童・生徒数が減少します。

表1　西条市の小学校区別児童数および中学校区別生徒数の変化　（単位：人）

区分	学校名	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	増減 2045年-2010年
小学校	玉津	536	514	509	502	504	499	485	486	△50
	飯岡	304	343	326	283	226	184	197	206	△98
	西条	602	527	413	409	448	461	429	355	△247
	神拝	935	823	653	538	503	505	474	388	△547
	大町	575	575	557	500	454	391	366	369	△206
	神戸	206	192	188	176	150	131	115	116	△90
	禎瑞	71	80	86	78	55	40	41	46	△25
	橋	111	108	101	83	67	56	51	50	△61
	氷見	217	181	156	134	102	78	67	60	△157
	周布	194	179	159	143	128	104	88	77	△117
	吉井	111	111	131	154	119	89	89	101	△10
	多賀	314	287	248	223	194	174	156	137	△177
	壬生川	309	284	260	246	226	201	175	155	△154
	国安	218	191	187	163	151	142	128	123	△95
	吉岡	147	128	131	141	130	106	92	87	△60
	楠河	129	105	97	88	70	61	55	47	△82
	三芳	137	113	86	74	68	67	61	42	△95
	庄内	102	92	84	64	44	30	25	23	△79
	丹原	323	281	254	239	233	230	206	181	△142
	徳田	72	64	61	70	59	38	29	28	△44
	田野	122	101	77	68	61	53	44	35	△87
	中川	124	116	85	63	46	32	29	25	△99
	田滝	7	11	11	5	4	1	1	2	△5
	小松	345	340	306	266	235	197	187	175	△170
	石根	111	91	98	82	61	47	34	29	△82
中学校	西条東	410	410	414	399	376	347	329	331	△79
	西条西	204	188	173	160	135	100	81	76	△128
	西条南	400	356	358	337	307	273	236	224	△176
	西条北	698	686	573	457	420	426	433	392	△306
	東予東	450	434	393	376	358	303	263	235	△215
	東予西	199	171	160	155	148	136	120	106	△93
	河北	200	165	138	120	99	80	72	63	△137
	丹原東	263	245	207	187	179	165	149	128	△135
	丹原西	59	59	50	36	28	19	14	13	△46
	小松	244	213	206	187	162	136	113	105	△139

◆ 次のページからアンケート調査の設問になります ◆

西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査票

最初に、回答されるあなたご自身についておたずねします。

※ あてはまるものを１つ選び数字を○で囲んでください。

問１　あなたの性別を教えてください。（*性別に関する設問の回答は任意です。）

①　男性	②　女性	③　回答しない

問２　あなたの年齢を教えてください。

①　２９歳以下	②　３０～３４歳	③　３５～３９歳	④　４０～４４歳
⑤　４５～４９歳	⑥　５０～５４歳	⑦　５５～５９歳	⑧　６０～６４歳
⑨　６５～６９歳	⑩　７０歳以上		

問３　あなたが勤務されている中学校を教えてください。

①　西条東	②　西条西	③　西条南	④　西条北	⑤　東予東
⑥　東予西	⑦　河北	⑧　丹原東	⑨　丹原西	⑩　小松

以下をご参考のうえ、続く設問にお答えください。

◇小・中学校の学級数については、標準とする学級数が下表のとおり法令で定められています。

	小学校	中学校
標準とする学級数	１学年あたり２～３学級 （１校あたり 12～18 学級）	１学年あたり４～６学級 （１校あたり 12～18 学級）

・児童生徒数が著しく少ない場合においては、複数の学級を１つの学級とする「※複式学級」を編制することとなります。

◇西条市においては、小学校では８割、中学校では７割の学校が、標準とする学級数を下回る小規模校となっています。

↓ここからが設問になります。↓

問４　あなたが、これまで法令で定める標準を下回る学級数（１校あたり 11 学級以下）の学校で勤務した経験の有無を選んでください。

①　あり	②　なし

問５　西条市内の今の中学校数や学校規模についてお聞きします。
①～②の項目について、あなたの考え方に近い選択肢を選んでください。

項　目		選　択　肢				
		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
（記入例）○○○について○○○と感じる	➡	5	(4)	3	2	1
ここから下が設問です						
① 小さい規模の中学校が多いと感じる	➡	5	4	3	2	1
② 20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる	➡	5	4	3	2	1
③ その他（　　）						

問６　小規模校（１校あたり 11 学級以下の中学校）の良さについて、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

① 子どもたちの人間関係が深まりやすい
② 子ども一人ひとりの活躍の機会が増える
③ 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい
④ 学年を超えた教育・交流活動の機会が多くなりやすい
⑤ 機器など授業で使用する教具が一人ひとりに行き渡りやすい
⑥ 学校・地域・保護者が一体となった活動がしやすい
⑦ その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

問７ 小規模校（１校あたり 11 学級以下の中学校）の課題について、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

① 教員との距離が近く、頼りがちになる
② 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
③ 球技や合唱のような集団活動や学校行事に制約が生じやすい
④ クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる
⑤ クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい
⑥ 男女比のかたよりが生じやすい
⑦ 先生が少ないため、専門教科以外の先生に教わる可能性がある
⑧ PTA 活動などで保護者１人あたりの役割や作業など負担が大きくなりやすい
⑨ その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

問８ 小規模校（１校あたり 11 学級以下の中学校）において教員が少なくなることによる学校運営上の課題について、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

① 子どもたちの良さが複数の教員から多面的に評価されにくい
② 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達（人材育成）がされにくい
③ 教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい
④ 経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい
⑤ 部活動の指導者確保が困難となりやすい
⑥ 教員定数上、教員ごとに受け持つ授業時間数に不均衡が生じやすい
⑦ 出張・研修等に参加しにくい
⑧ その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

問９ 中学校では、１学年あたりどの程度の学級数が適切だと思いますか。

※選択した番号を１つ選択欄に記入してください。

① １学級　② ２学級　③ ３学級
④ ４学級　⑤ ５学級以上
⑥ その他（　　）

選択欄

問 10 中学校では、１学級あたりどの程度の生徒数が適切だと思いますか。

※選択した番号を１つ選択欄に記入してください。

① 10 人以下　② 11～20 人　③ 21～25 人
④ 26～30 人　⑤ 31～35 人　⑥ 36～40 人
⑦ その他（　　）

選択欄

続いての設問は、問11の選択によって問 12または問 13にお進みください

問 11 将来の子どもたちが学びやすい学校規模とするために、西条市の中学校の再編はどのようにしていくことが望ましいと思いますか。

※選択した番号を１つ選択欄に記入してください。

① 今後、さらに生徒が減少しても今の学校配置が望ましい
⇒問 12 にお進みください

② 今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない
⇒問 13 にお進みください

③ 市全体を対象とした計画を立て、積極的に学校再編を進めるべき
⇒問 13 にお進みください

選択欄

問 12 **問 11 で①を選択した方にお聞きします。**問 11 で①を選択した理由として、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

① 学校は地域の活動拠点であるから
② 地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから
③ 地域から学校がなくなるのは寂しいから
④ 今の教育環境を大切にしたいから
⑤ その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

問 13 **問 11 で②または③を選択した方にお聞きします。**問 11 で②または③を選択した理由として、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

① 複式学級の解消やクラス替えができるから
② 多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから
③ 適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから
④ 進学・就職の際に人数のギャップによる不安感が少なくなるから
⑤ 学校再編により教育予算が効率的に活用できるから
⑥ その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

またここからの設問は、すべての方におたずねします

問 14 学校再編を進めるには、どのような点に配慮すべきだと思いますか。あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

① 子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保
② 子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）
③ 9 年間を見通した小中一貫教育の実施
④ 再編する学校の子どもたち同士の事前交流
⑤ 保育所や幼稚園、学童保育など子育て機能を有する施設を学校と一体的に整備
⑥ 学校再編で学校が空き施設になった場合の有効活用策
⑦ 避難所機能の充実
⑧ 学校を地域の拠点とし、その周辺に公共施設や生活に必要なサービス機能の充実
⑨ 保護者・地域団体・地域住民との十分な協議
⑩ その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

問 15 中学生の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

※選択した番号を 1 つ選択欄に記入してください。

① 15 分未満　② 15 分以上 30 分未満
③ 30 分以上 45 分未満　④ 45 分以上 60 分未満
⑤ 60 分以上

選択欄

問 16 「問 15」でお答えいただいた通学時間の範囲で子どもたちが通学するために、どのような配慮が必要だと思いますか。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

① 住所から近い場所にある学校への通学を認める
② 公共交通機関（バスなど）の利用を認める
③ スクールバスを運行する
④ 自転車・徒歩で構わない
⑤ その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

問 17 将来的な人口減少を見据えた学校規模適正化について、ご意見をご自由にお書きください。

（　　）

アンケートは以上です。

ご協力ありがとうございました。